

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年6月26日
【事業年度】	第35期（自平成29年4月1日至平成30年3月31日）
【会社名】	アイエーグループ株式会社
【英訳名】	I.A GROUP CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 古川 教行
【本店の所在の場所】	横浜市戸塚区品濃町545番地5
【電話番号】	045(821)7500（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経理財務部長 岡野 良信
【最寄りの連絡場所】	横浜市戸塚区品濃町545番地5
【電話番号】	045(821)7500（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経理財務部長 岡野 良信
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第31期	第32期	第33期	第34期	第35期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	36,038,161	35,237,745	34,863,249	33,968,950	32,822,971
経常利益 (千円)	2,533,452	1,474,007	917,665	970,307	1,013,431
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 (千円)	1,421,252	827,413	449,210	332,716	215,407
包括利益 (千円)	1,418,813	851,534	441,830	315,774	202,421
純資産額 (千円)	13,647,176	14,010,410	14,107,736	13,913,458	13,478,648
総資産額 (千円)	28,272,394	31,574,851	32,000,542	30,375,909	31,957,161
1株当たり純資産額 (円)	1,575.12	1,672.96	1,721.73	9,009.94	8,843.11
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失 (円)	163.56	96.79	54.33	210.61	141.01
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	48.3	44.4	44.1	45.8	42.1
自己資本利益率 (%)	10.9	6.0	3.2	2.4	-
株価収益率 (倍)	4.3	8.2	13.3	15.0	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	3,852,761	2,831,183	2,129,589	1,354,652	1,085,896
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,489,994	4,745,449	848,708	1,171,595	314,891
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,729,512	1,830,030	626,466	1,116,077	192,256
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,408,898	1,324,663	1,979,077	1,046,058	1,624,806
従業員数 (名)	951 (296)	1,011 (344)	1,018 (408)	964 (355)	1,077 (331)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 第35期より表示方法の変更を行っており、第34期の主要な経営指標等についても当該変更を反映した組替後の数値を記載しております。なお、表示方法の内容については、第5. 経理の状況の注記事項に記載しております。

4 当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。第34期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失を算定しております。

5 第35期の自己資本利益率、株価収益率については、親会社株主に帰属する当期純損失であるため記載しておりません。

6 従業員数欄の(外書)は、パートタイマー等の年間平均雇用人員であります。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第31期	第32期	第33期	第34期	第35期
決算年月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
売上高及び営業収益 (千円)	1,502,158	2,008,165	1,817,932	1,728,943	1,548,034
経常利益 (千円)	216,504	422,297	324,369	268,528	125,623
当期純利益 (千円)	519,832	401,892	268,006	226,887	364,645
資本金 (千円)	1,314,100	1,314,100	1,314,100	1,314,100	1,314,100
発行済株式総数 (株)	10,126,800	10,126,800	10,126,800	8,226,800	1,645,360
純資産額 (千円)	6,825,880	6,763,592	6,679,713	6,379,606	6,494,878
総資産額 (千円)	14,627,933	14,836,353	15,557,180	14,118,637	14,897,210
1株当たり純資産額 (円)	787.82	807.63	815.20	4,131.24	4,270.67
1株当たり配当額 (円)	30.0	24.0	24.0	24.0	72.0
(内1株当たり中間配当額) (円)	(12.0)	(12.0)	(12.0)	(12.0)	(12.0)
1株当たり当期純利益 (円)	59.82	47.01	32.41	143.62	238.70
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	46.7	45.6	42.9	45.2	43.6
自己資本利益率 (%)	7.7	5.9	4.0	3.5	5.7
株価収益率 (倍)	11.8	16.9	22.3	22.0	15.3
配当性向 (%)	50.2	51.1	74.0	83.6	50.3
従業員数 (名)	34 (10)	40 (30)	47 (35)	42 (37)	41 (34)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。第34期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益金額を算定しております。

4 第35期の1株当たり配当額72円は、中間配当額12円と期末配当額60円の合計となります。当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しておりますので、中間配当額12円は、株式併合前の配当額、期末配当額60円は、株式併合後の配当額となります。なお、株式併合後の基準で換算した第35期の1株当たり配当額は、120円となります。

5 従業員数欄の(外書)は、パートタイマー等の年間平均雇用人員であります。

2【沿革】

年月	事項
昭和59年3月	自動車用品販売を目的として神奈川県大和市福田5677番地に株式会社アイエーを設立
昭和59年4月	株式会社オートボックスセブンとフランチャイズ契約を締結し、オートボックス店舗をオープン
平成元年4月	横浜市戸塚区品濃町545番地3に本社を移転
平成5年11月	横浜市戸塚区品濃町545番地5に本社を移転
平成7年5月	株式会社アイディーエム（現・連結子会社）、株式会社クレストを子会社化
平成8年9月	当社株式を日本証券業協会の店頭銘柄として登録
平成12年6月	株式会社アドバンスを子会社化
平成13年4月	株式会社アイディーエムと株式会社クレストが合併（存続会社株式会社アイディーエム）
平成13年6月	株式会社アイディーエムパートナーズ（現・連結子会社）を設立
平成14年4月	株式会社アイディーエムの会社分割により、株式会社パーソンズを設立
平成14年10月	株式会社ティーディーエスを設立
平成16年4月	株式会社アイディーエムのレンタル・ゲーム事業を会社分割により、株式会社アクシス（旧社名株式会社ティーディーエス）に承継
平成16年12月	株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成19年4月	株式会社アクシスの会社分割により、株式会社アクシスエンタテインメントを設立 株式会社アイディーエムメンテナンス（現・連結子会社）を設立
平成20年3月	株式会社フレンド21を子会社化
平成20年4月	株式会社フレンド21が株式会社アルカンシエル（現・連結子会社）に商号変更するとともに、同社のカー用品事業を会社分割により株式会社フレンド21に承継
平成20年10月	会社分割による持株会社体制への移行、アイエーグループ株式会社に商号変更 カー用品事業を株式会社アイエー（現・連結子会社）に承継 株式会社アイエーと株式会社フレンド21が合併（存続会社株式会社アイエー）
平成22年4月	株式会社アクシスと株式会社アクシスエンタテインメントが合併（存続会社株式会社アクシス） ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所 J A S D A Q に上場
平成22年9月	株式会社アルカンシエルプロデュース（現・連結子会社）を設立
平成23年4月	株式会社アイエーマネージメントサービス（現・連結子会社）を設立
平成24年2月	株式会社アイディーエムメンテナンスを株式会社 I A G コンストラクション（現・連結子会社）へ社名変更
平成24年3月	株式会社アイディーエムの会社分割により、株式会社 I A G アセット（現・連結子会社）を設立
平成25年2月	株式会社パーソンズを清算
平成25年4月	株式会社エフ・エム・クラフト（現・連結子会社）を子会社化
平成25年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所 J A S D A Q（スタンダード）に上場
平成26年3月	株式会社アクシスを清算
平成26年5月	株式会社オートボックス神奈川を子会社化
平成26年10月	株式会社アイエーと株式会社オートボックス神奈川が合併（存続会社株式会社アイエー）
平成27年3月	株式会社アドバンスを清算
平成27年4月	株式会社 I D M o b i l e（現・連結子会社）を設立
平成30年1月	株式会社アイエーオートボックス（現・連結子会社）を設立

### 3【事業の内容】

当社グループは、アイエーグループ株式会社（当社）及び連結子会社11社により構成されており、事業はカー用品事業、ブライダル事業、建設不動産事業を行っております。

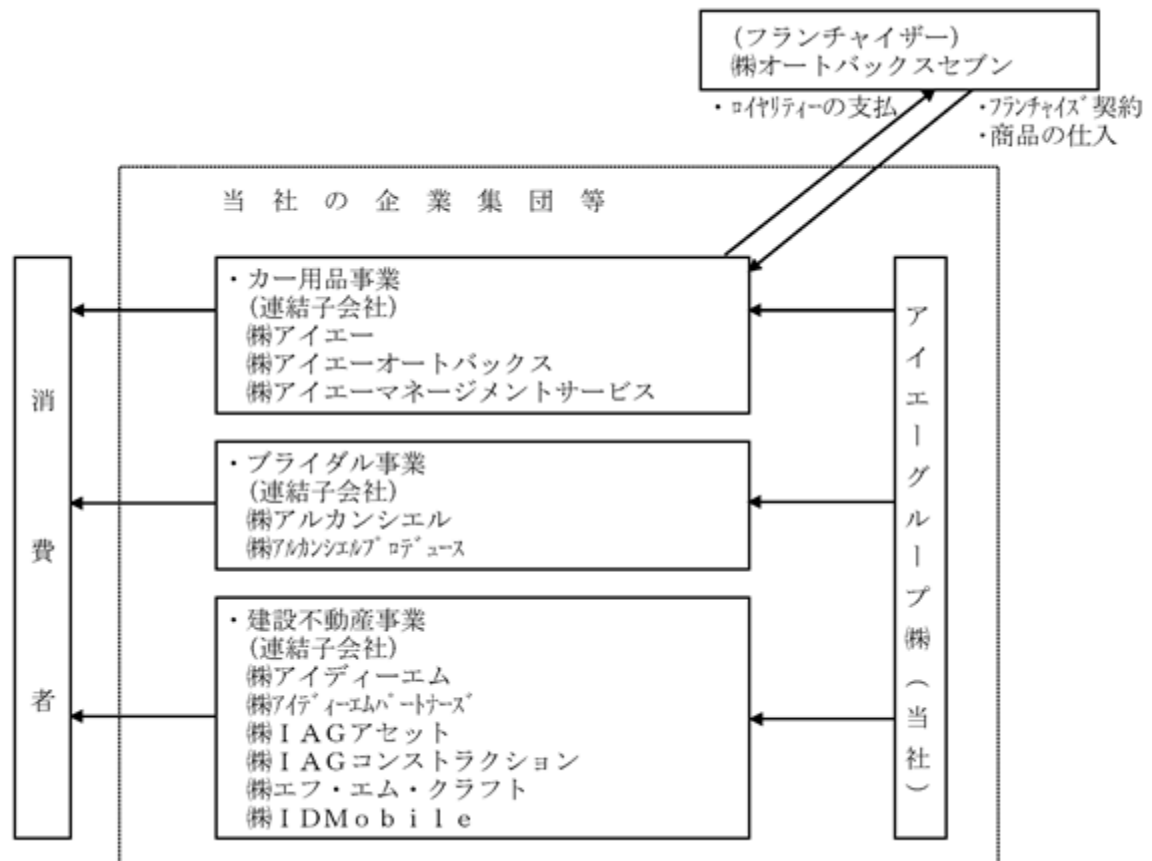
なお、当社は、有価証券の取引等の規制に関する内閣府令第49条第2項に規定する特定上場会社等に該当しており、これにより、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準については連結ベースの数値に基づいて判断することとなります。

当社グループの事業に係る位置づけ、及びセグメントとの関連は、次の通りであります。

なお、セグメントと同一の区分であります。

事業内容	当社又は子会社の事業における位置づけ
カー用品事業	株式会社アイエー、株式会社アイエーオートボックス、株式会社アイエーマネージメントサービス
ブライダル事業	株式会社アルカンシエル、株式会社アルカンシエルプロデュース
建設不動産事業	株式会社アイディーエム、株式会社アイディーエムパートナーズ 株式会社IDMobile 株式会社IAGアセット、株式会社IAGコンストラクション 株式会社エフ・エム・クラフト 株式会社アイディーエム、株式会社IAGコンストラクションは当社の店舗設備・営繕業務の一部を行っております。
その他の事業	(飲食事業及び経理・総務代行業) アイエーグループ株式会社

事業系統図は、次の通りであります。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の 内容	議決権の所有割合 又は被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社アイエー (注4,5)	横浜市 戸塚区	300,000	カー用品事業	100.0	当社は、経理・総務代行業務 を行っております。 役員の兼任1名
株式会社アイエーオート ボックス	横浜市 戸塚区	98,000	カー用品事業	66.0 (66.0)	当社は、経理・総務代行業務 を行っております。
株式会社アイエーマネー ジメントサービス	横浜市 戸塚区	10,000	カー用品事業	100.0 (100.0)	当社は、経理・総務代行業務 を行っております。
株式会社アルカンシエル (注4,6)	名古屋 市西区	58,600	ブライダル事 業	100.0	当社は、経理・総務代行業務 を行っております。 役員の兼任2名
株式会社アルカンシエル プロデュース	名古屋 市西区	10,000	ブライダル事 業	100.0 (100.0)	当社は、経理・総務代行業務 を行っております。
株式会社アイディーエム	横浜市 戸塚区	88,000	建設不動産事 業	100.0	当社は、経理・総務代行業務 を行っております。 役員の兼任2名
株式会社アイディーエム パートナーズ	横浜市 戸塚区	50,000	建設不動産事 業	100.0 (100.0)	当社は、経理・総務代行業務 を行っております。
株式会社IDMobile	横浜市 戸塚区	10,000	建設不動産事 業	100.0 (100.0)	当社は、経理・総務代行業務 を行っております。
株式会社IAGアセット	横浜市 戸塚区	50,000	建設不動産事 業	100.0	当社は、経理・総務代行業務 を行っております。 役員の兼任1名
株式会社IAGコンスト ラクション	横浜市 戸塚区	20,000	建設不動産事 業	100.0 (100.0)	当社は、経理・総務代行業務 を行っております。 役員の兼任1名
株式会社エフ・エム・ク ラフト	横浜市 戸塚区	30,000	建設不動産事 業	100.0 (100.0)	当社は、経理・総務代行業務 を行っております。

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。  
2 上記会社のうちには、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。  
3 「議決権の所有(被所有)割合」欄の(内書)は間接所有割合であります。  
4 特定子会社に該当しております。  
5 株式会社アイエーについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

株式会社アイエー	売上高	20,925,786千円
	経常利益	961,569千円
	当期純利益	597,689千円
	純資産額	4,911,177千円
	総資産額	9,072,619千円

- 6 株式会社アルカンシエルについては、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

株式会社アルカンシエル	売上高	8,293,662千円
	経常損失	393,126千円
	当期純損失	1,335,672千円
	純資産額	3,347,145千円
	総資産額	7,310,939千円

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（名）
カー用品事業	774 (169)
ブライダル事業	229 (120)
建設不動産事業	33 (8)
その他の事業	41 (34)
合計	1,077 (331)

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。  
2 従業員数欄の（外書）は、パートタイマー等の年間平均雇用人員であります。  
3 従業員数が前連結会計年度末に比べ113名増加したのは、株式会社アイエーオートボックスの事業譲受等によるものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数（名）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（千円）
41(34)	38.2	11.2	5,734

セグメントの名称	従業員数（名）
その他の事業	41(34)
合計	41(34)

- (注) 1 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除く。）であります。  
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3 従業員数欄の（外書）は、パートタイマー等の年間平均雇用人員であります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループを取り巻く環境につきましては、少子化や高齢化に伴う市場の縮小と競争の激化など、依然として厳しい状況が続くものと予想されます。

そのような中、当社は中長期を見据えた課題である「2020年プロジェクト」に継続して取り組んでおり、当社グループの基幹事業であるカー用品事業、プライダル事業および建設不動産事業に注力しうる体制を整えてまいりました。

カー用品事業につきましては15店舗の譲受による規模の拡大、車検および車買取・販売の強化に取り組み、プライダル事業につきましては既存式場を改装するなどの積極的な投資を行ってまいりました。

また「人材の育成と発掘」を重要なテーマとして取り組み、当社独自の教育制度を定着させ、幅広く人材の底上げを実施いたしました。

しかしながら、取り巻く環境は急激に変化しております。組織基盤の強化、また投下資本の早期回収による財務基盤の強化、更には新たな事業創造への取り組みなど、そのペースを加速する必要があります。

#### 株式会社の支配に関する基本方針

当社は、継続的な企業価値の増大ひいては株主共同の利益の向上のためには、当社の利害関係者との良好な関係を維持しつつ、経営の効率性や収益性を高める必要があり、そのためには専門性の高い業務知識や営業ノウハウを備えたものが取締役に就任し、法令及び定款の定めを遵守しつつ当社の財務及び事業の方針の決定につき重要な職務を担当することが必要であると考えております。

また、当社は常に収益性、成長性、財務の健全化を重視し、特に自己資本当期純利益率、1株当たり当期純利益等の重要な経営指標の最大化を目指す企業経営に取り組んでおります。

不適切な支配の防止のための取り組み等につきましては、重要な経営課題の一つとして、買収行為を巡る法制度や関係当局の判断・見解、世間の動向等を注視しながら、今後も継続して検討を行ってまいります。

### 2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

また、当社として必ずしも事業上のリスクに該当しない事項についても、投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資者に対する情報開示の観点から積極的に開示しております。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社が判断したものであります。

#### (当社グループ全体)

##### ・店舗展開について

当社グループの店舗は、主に土地建物賃貸借契約及び事業用定期借地契約により出店しております。

土地建物賃貸借契約においては、契約締結時に貸主に差入保証金を差し入れております。

当該差入保証金は、契約期間満了等による契約解約時に契約に従い、返還されることとなっておりますが、契約に定められた期間満了前に中途解約した場合は、契約内容に従って解約違約金の支払が必要となる場合があります。

また、貸主の財政状態の悪化等により、差入保証金の全額を回収できない可能性があります。

事業用定期借地契約においては、賃借期限が満了した場合、もしくは中途解約する場合は原則として、建物を撤去し、原状復帰して土地を返却することとなっております。

その原状復帰費用は、当社グループ負担となりますので中途解約等により予期せぬ費用が発生した場合には業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### ・個人情報漏洩リスクについて

当社グループは、各事業において多くのお客様の個人情報を取り扱うこととなります。

当社グループとしては、個人情報保護管理規程を制定し、社内管理体制を整備して情報管理への意識を高めるとともに、個人情報が漏洩することのないように取扱いには十分留意しております。

しかしながら、万一、お客様の個人情報が漏洩した場合には、当社グループに対する社会的信用の低下により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。



(カー用品事業)

・オートボックス及びスーパーオートボックスフランチャイズチェーン契約について

当社グループのオートボックス及びスーパーオートボックスチェーン店舗は、株式会社オートボックスセブン(以下「FC本部」という。)が運営するオートボックスチェーン及びスーパーオートボックスチェーンのフランチャイジーとして、自動車用品等の小売業を行っており、当社は当該事業を主たる業務としております。

オートボックスチェーン及びスーパーオートボックスチェーン・システムにおいては、オートボックスチェーン店舗及びスーパーオートボックスチェーン店舗の出店の都度、FC本部とフランチャイジーとの間でフランチャイズ契約(以下「オートボックスチェーン契約」及び「スーパーオートボックスチェーン契約」という。)を締結する必要があります。従いまして当社グループのオートボックスチェーン店舗及びスーパーオートボックスチェーン店舗について同契約を締結しております。この制度の下では、新規出店の都度FC本部に出店の承認を申請し、許諾を得る必要があります。このチェーン・システムにおいてはテリトリー制のような一定の商圈における出店の自由またその独占の保証はなく、一方、出店地域の制限はありません。FC本部に加盟申請がなされた場合、各店舗の開設申請地について、地域特性及び採算性を勘案し、出店の是非を決定することとされております。

オートボックス及びスーパーオートボックスチェーン契約の概要は「第2事業の状況 4 経営上の重要な契約等」をご参照ください。

(ブライダル事業)

・少子化について

人口動態、未婚率の動向により、将来、ブライダルマーケット全体が縮小することが懸念されます。

当社グループの行うブライダル事業につきましても、将来、マーケットの縮小が業績に影響を及ぼす可能性があります。

・競合について

挙式・披露宴のスタイルが多様化する中で当社グループが提供するゲストハウスウェディングは、比較的優位に推移しておりますが、異業種からの新規参入、同業他社との競合状況が激化した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(建設不動産事業)

・保有不動産の価格変動に係るリスクについて

当社グループの行う建設不動産事業は、販売用不動産の資産を保有しております。そのため、当該資産の販売価格の変動に伴い、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

・法的規制に係るリスクについて

当社グループの建設不動産事業は、「宅地建物取引業法」「金融商品取引法」等による法的規制を受けており、関連許認可を得ております。当社グループは、これまでにこれら法的規制によって重大な影響を受けたことはありませんが、今後新たな規制の制定や改廃が行われた場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績およびキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次の通りであります。

##### 財政状態の分析

###### 流動資産

当連結会計年度末における流動資産は、前期と比べ、33億101万円増加し、125億4,969万円となりました。これは主にたな卸資産23億2,594万円の増加によるものであります。

###### 固定資産

当連結会計年度末における固定資産は、前期と比べ、17億1,976万円減少し、194億746万円となりました。これは主に建物及び構築物11億3,373万円の減少によるものであります。

###### 流動負債

当連結会計年度末における流動負債は、前期と比べ、28億6,009万円増加し、108億146万円となりました。これは主に短期借入金14億8,539万円の増加によるものであります。

###### 固定負債

当連結会計年度末における固定負債は、前期と比べ、8億4,402万円減少し、76億7,704万円となりました。これは主に長期借入金13億4,654万円の減少によるものであります。

###### 純資産

当連結会計年度末における純資産は、前期と比べ、4億3,480万円減少し、134億7,864万円となりました。これは主に利益剰余金3億9,950万円の減少によるものであります。

##### 経営成績の分析

当連結会計年度における我が国経済は、政府の経済政策を背景に緩やかな回復基調で推移しました。一方、個人消費につきましては雇用・所得環境に改善が見られるものの、依然として消費者の節約志向は根強く、その先行きは不透明な状況であります。

そのような中、当社グループにおいては基幹事業であるカー用品事業が増収増益、プライダル事業は減収減益となり、建設不動産事業は増収増益となりました。

なお、セグメント別の状況は以下の通りとなります。

カー用品事業につきましては、前連結会計年度において契約期間満了により2店舗が閉店となりましたが、商品販売においてタイヤメーカー主導の値上げに備えた駆け込み需要や、ドライブレコーダーの需要、降雪によるスタッドレスタイヤの需要等が業績に寄与し、ピットサービス部門と車両販売においても順調に推移いたしました。また平成30年3月1日より宮城県と秋田県のオートボックス13店舗・スーパーオートボックス2店舗の営業を開始したことも寄与し、前年同期と比べ増収増益となりました。

プライダル事業につきましては、高付加価値商品の開発提案に努めた結果、施行単価の向上が図られましたが、前連結会計年度において1店舗を事業譲渡したこと、およびその他の式場における施行組数が減少したことにより、前年同期と比べ減収減益となりました。

建設不動産事業につきましては、高収益物件の戦略的な売却と、収益性を重視した優良賃貸物件の取得および賃貸稼働率の向上ならびに提案型による収益性の高い建築工事に注力したことにより、前年同期と比べ増収増益となりました。

その他事業につきましては、コメダ珈琲4店舗が売上に寄与しましたが、前連結会計年度に閉店したカー用品事業店舗の賃料収入の減少等により、前年同期と比べ減収減益となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は328億2,297万円（前年同期比3.4%減）となり、営業利益につきましては8億9,172万円（前年同期比24.7%増）、経常利益につきましては10億1,343万円（前年同期比4.4%増）となりました。また、投資有価証券の売却に伴う利益4億1,575万円を特別利益に計上するとともに、当社グループが保有する事業用資産の一部について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損損失12億5,478万円を特別損失に計上しました。これにより、親会社株主に帰属する当期純損失は、2億1,540万円（前年同期は3億3,271万円の利益）となりました。

キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ5億7,874万円増加し、16億2,480万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、10億8,589万円の収入となり、前期と比べ、2億6,875万円の収入の減少となりました。これは、主としてたな卸資産の増減によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、3億1,489万円の支出となり、前期と比べ、8億5,670万円の支出の減少となりました。これは、主として差入保証金の差入による支出の減少によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、1億9,225万円の支出となり、前期と比べ、9億2,382万円の支出の減少となりました。これは、主として長期借入金の返済による支出の減少によるものであります。

受注、仕入及び販売の実績

a.受注残高

当連結会計年度末における受注残高は、次の通りであります。

セグメントの名称	受注残高(千円)	前年同期比(%)
ブライダル事業	638,438	90.1
建設不動産事業	505,796	410.7
合計	1,144,234	137.6

(注)1 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2 ブライダル事業の受注残高につきましては、前受金残高を記載しております。

b.仕入実績

当連結会計年度における仕入実績は、次の通りであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
カー用品事業		
タイヤ	1,729,082	104.4
ホイール	549,185	114.5
カーオーディオ	2,179,247	100.2
モータースポーツ関連用品	699,948	97.6
オイル	744,863	99.8
小物用品	2,693,127	108.0
バッテリー	446,523	103.2
物販小計	9,041,977	103.9
サービス	1,811,305	97.4
車輛仕入	1,531,552	109.4
カー用品事業計	12,384,835	103.6
ブライダル事業	4,534,195	83.3
建設不動産事業	3,606,673	180.7
報告セグメント計	20,525,704	105.8
その他の事業	578,299	79.8
合計	21,104,004	104.9

(注)上記金額には、消費税等は含まれておりません。

c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績は、次の通りであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
カー用品事業		
タイヤ	3,609,813	106.0
ホイール	617,881	107.5
カーオーディオ	2,592,614	90.5
モータースポーツ関連用品	858,824	89.7
オイル	1,232,358	98.4
小物用品	3,830,061	103.3
バッテリー	852,999	101.7
物販小計	13,594,552	99.9
サービス	6,018,862	102.6
車輛販売	1,676,318	110.6
カー用品事業小計	21,289,734	101.4
内部売上消去等	3,534	
カー用品事業計	21,286,199	101.4
ブライダル事業	8,293,876	84.3
内部売上消去等	100	
ブライダル事業計	8,293,776	84.3
建設不動産事業	3,148,132	107.0
内部売上消去等	236,152	
建設不動産事業計	2,911,979	107.4
報告セグメント計	32,491,955	96.9
その他の事業	1,548,136	89.5
内部売上消去等	1,217,120	
その他の事業計	331,016	83.4
合計	32,822,971	96.7

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。  
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている企業会計の基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たって、当社経営陣は資産、負債及び収益・費用の各報告数値に影響を与える見積りの仮定を過去の実績や状況に応じて合理的に設定し、算定しておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りとは異なる場合があります。

当社グループは、特に次の重要な会計方針及び見積りが連結財務諸表に重要な影響を及ぼす事項であると考えております。

当社グループは、繰延税金資産の回収可能性を評価するに際して将来の課税所得を合理的に見積っております。繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存するため、その見積り額が減少した場合、繰延税金資産が取り崩され、税金費用が計上される可能性があります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績等

1) 財政状態

流動資産

当連結会計年度末における流動資産は、前期と比べ、33億101万円増加し、125億4,969万円となりました。これは主にたな卸資産23億2,594万円の増加によるものであります。

固定資産

当連結会計年度末における固定資産は、前期と比べ、17億1,976万円減少し、194億746万円となりました。これは主に建物及び構築物11億3,373万円の減少によるものであります。

流動負債

当連結会計年度末における流動負債は、前期と比べ、28億6,009万円増加し、108億146万円となりました。これは主に短期借入金14億8,539万円の増加によるものであります。

固定負債

当連結会計年度末における固定負債は、前期と比べ、8億4,402万円減少し、76億7,704万円となりました。これは主に長期借入金13億4,654万円の減少によるものであります。

純資産

当連結会計年度末における純資産は、前期と比べ、4億3,480万円減少し、134億7,864万円となりました。これは主に利益剰余金3億9,950万円の減少によるものであります。

2) 経営成績

当連結会計年度の売上高は328億2,297万円（前年同期比3.4%減）となり、営業利益につきましては8億9,172万円（前年同期比24.7%増）、経常利益につきましては10億1,343万円（前年同期比4.4%増）となりました。また、投資有価証券の売却に伴う利益4億1,575万円を特別利益に計上するとともに、当社グループが保有する事業用資産の一部について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損損失12億5,478万円を特別損失に計上しました。これにより、親会社株主に帰属する当期純損失は、2億1,540万円（前年同期は3億3,271万円の利益）となりました。

### 3) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

#### b. 経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容については、「2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

#### c. 資本の財源及び資金の流動性

当社グループの事業活動における運転資金需要の主なものは当社グループのカー用品事業、プライダル事業、建設不動産事業及びその他事業に関わる店舗運営費用、不動産取得費用、各事業についての一般管理費等があります。また、設備資金需要としては店舗取得資金があります。これらに必要な資金を安定的に確保するため、内部資金の活用及び金融機関からの借入により資金調達を行っており、運転資金及び設備資金につきましては、子会社のものを含めて当社において一元管理しております。当社グループの当期末の有利子負債の残高は、96億8,870万円となっており、金利変動リスクに晒されないよう、調達目的に応じた変動金利及び固定金利の選択により対応しております。当社グループの事業の維持拡大および運営に必要な、運転資金と設備資金の調達は今後とも可能であると考えております。

#### d. 経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、継続的な企業価値の拡大、当社グループの利害関係者との良好な関係を維持しつつ、経営の効率性や収益を高めることが必要と考え、「自己資本当期純利益率(ROE)」と「1株当たり当期純利益」を重要な指標として位置づけております。当連結会計年度末における「自己資本当期純利益率(ROE)」は、1.6%であり、「1株当たり当期純利益」は、141.01円となりました。これらの指標について、今後改善されるように取り組んでまいります。

#### e. セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

##### (カー用品事業)

前連結会計年度において契約期間満了により2店舗が閉店となりましたが、商品販売においてタイヤメーカー主導の値上げに備えた駆け込み需要や、ドライブレコーダーの需要、降雪によるスタッドレスタイヤの需要等が業績に寄与し、ピットサービス部門と車両販売においても順調に推移いたしました。また平成30年3月1日より宮城県と秋田県のオートボックス13店舗・スーパーオートボックス2店舗の営業を開始したことも寄与し、前年同期と比べ増収増益となりました。

##### (プライダル事業)

高付加価値商品の開発提案に努めた結果、施行単価の向上が図られましたが、前連結会計年度において1店舗を事業譲渡したこと、およびその他の式場における施行組数が減少したことにより、前年同期と比べ減収減益となりました。

##### (建設不動産事業)

高収益物件の戦略的な売却と、収益性を重視した優良賃貸物件の取得および賃貸稼働率の向上ならびに提案型による収益性の高い建築工事に注力したことにより、前年同期と比べ増収増益となりました。

##### (その他事業)

コメダ珈琲4店舗が売上に寄与しましたが、前連結会計年度に閉店したカー用品事業店舗の賃料収入の減少等により、前年同期と比べ減収減益となりました。

#### 4【経営上の重要な契約等】

(連結子会社)

(株)アイエー及び(株)アイエーオートボックス)

##### (1)オートボックスフランチャイズチェーン契約

(株)アイエー及び(株)アイエーオートボックス(以下「同社」という。)のオートボックスチェーン店舗は、株式会社オートボックスセブン(以下「FC本部」という。)が運営するオートボックスチェーンのフランチャイジーとして、自動車用品等の小売業を行っており、同社は当該事業を主たる業務としております。

オートボックスチェーン・システムにおいては、オートボックスチェーン店舗の出店の都度、FC本部とフランチャイジーとの間でフランチャイズ契約(以下「オートボックスチェーン契約」という。)を締結する必要があります。従いまして同社は同社のオートボックスチェーン店舗について同契約を締結しております。この制度の下では、新規出店の都度FC本部に出店の承認を申請し、承諾を得る必要があります。このチェーン・システムにおいてはテリトリー制のような一定の商圈における出店の自由またその独占の保証はなく、一方、出店地域の制限はありません。FC本部に加盟申請がなされた場合、各店舗の開設申請地について、地域特性および採算性等を勘案し、出店の是非を決定することとされております。

オートボックスチェーン契約の概要は以下の通りであります。

##### 1 契約の要旨

オートボックスチェーンの加盟店は、契約に定められた店舗所在地において、「オートボックス 店」という店名を用いて自動車部品・用品及び関連する商品の販売及びサービスの提供を行う。FC本部は安定的に商品を供給するとともに、店舗運営に必要な事業システムおよびノウハウを提供する。

##### 2 契約期間

契約締結の日から5年間とし、双方のいずれかより期間満了の6ヵ月前までに文書により更新しない旨の意思表示が無い場合は、同一条件でさらに3年間継続更新されるものとし、その後も同様の方法で継続更新される。

##### 3 対価

契約締結時に際して、加盟店はFC本部に対して一定額を加盟金として支払い、加盟保証金として預託する。また、加盟店は売上高の一定比率をロイヤリティとして毎月FC本部に支払う。

##### (2)スーパーオートボックスフランチャイズチェーン契約

##### 1 契約の要旨

スーパーオートボックスチェーンの加盟店は、契約に定められた店舗所在地において、オートボックスチェーン本部(以下「FC本部」という。)が創造開発した「スーパーオートボックスシステム」により自動車用品部品及びカーライフに関連する商品の販売およびサービスの提供を行なう。

FC本部は、スーパーオートボックス店舗の運営、管理、及び販売、サービスの方法を絶えず創造開発する。

##### 2 契約期間

契約締結の日から15年間とし、期限6ヵ月前までに両当事者のいずれか一方から相手方に文書による更新拒絶の通知をしない限り、同一条件で更に5年間継続更新され、その後も同様の方式で自動的に継続更新される。

##### 3 対価

契約締結時に際して、加盟店はFC本部に対して一定額を加盟金として支払い、加盟保証金として預託する。また、加盟店は売上高の一定比率をロイヤリティとして毎月FC本部に支払う。

#### 5【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額は、1,270,684千円で主にプライダル事業に1,054,464千円の設備投資を行いました。

セグメントの設備投資について示すと次の通りであります。

（カー用品事業）

カー用品事業の設備投資の総額は、170,287千円であり、主に「スーパーオートバックス十日市場店」の空調設備更新工事の設備投資であります。

（プライダル事業）

プライダル事業の設備投資の総額は、1,054,464千円であり、主に「アルカンシエル南青山」の建物本体の設備投資であります。

（建設不動産事業）

建設不動産事業の設備投資の総額は、1,043千円であり、主に「横浜東口ビル」の空調設備の設備投資であります。

（その他の事業）

その他の事業の設備投資の総額は、47,137千円であり、主に「スーパーオートバックス横浜ベイサイド」の空調設備更新工事の設備投資であります。



## 2【主要な設備の状況】

### (1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員 数 (名)
			建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	リース資 産	その他	合計	
大和店 (神奈川県大和市)	その他の事業	オートボックス及びテ クノキューブ店舗 建物	103,695				103,695	
都岡店 (横浜市旭区)	その他の事業	オートボックス店舗 土地、建物	50,398	793,486 (4,814.5)			843,884	
横須賀中央店 (神奈川県横須賀市)	その他の事業	オートボックス店舗 土地、建物	87,044	666,600 (3,300.0)		1,038	754,683	
東神奈川店 (横浜市神奈川区)	その他の事業	オートボックス店舗 建物	186,894				186,894	
稲城店 (東京都稲城市)	その他の事業	オートボックス店舗 建物	81,576			0	81,576	
SA横浜ベイサイド (横浜市金沢区)	その他の事業	スーパーオートバック ス店舗及びテクノ キューブ店舗 土地、建物	148,584	853,784 (7,000.0)			1,002,369	
SAかわさき (川崎市川崎区)	その他の事業	スーパーオートバック ス店舗 土地、建物	293,835	1,089,790 (5,934.8)			1,383,625	
海老名 (神奈川県海老名市)	その他の事業	オートボックス及びテ クノキューブ店舗 建物	371,997			2	371,999	
環4泉店 (横浜市泉区)	その他の事業	オートボックス及びテ クノキューブ店舗 土地、建物	98,516	37,673 (103.6)			136,190	
藤沢柄沢店 (神奈川県藤沢市)	その他の事業	テクノキューブ店舗 建物	41,687				41,687	
大垣店 (岐阜県大垣市)	その他の事業	オートボックス店舗 建物	78,950			28	78,979	
SA246江田 (横浜市都筑区)	その他の事業	スーパーオートバック ス店舗 土地、建物	220,301	748,962 (4,385.1)		7,678	976,942	
横浜元町店 (横浜市中区)	その他の事業	コメダ珈琲店舗 (賃借店舗)	19,530		3,600	723	23,854	3
横浜中田店 (横浜市泉区)	その他の事業	コメダ珈琲店舗 (賃借店舗)	22,054		5,529	932	28,516	3
横浜鍛冶ヶ谷店 (横浜市栄区)	その他の事業	コメダ珈琲店舗 (賃借店舗)	6,283		5,558	1,364	13,206	4
なぎさモール辻堂店 (神奈川県藤沢市)	その他の事業	コメダ珈琲店舗 (賃借店舗)	0			0	0	3
本社 (横浜市戸塚区)	その他の事業	建物附属設備 器具備品	15,590		5,719	2,108	23,419	28

(注) 1 SAはスーパーオートボックスの略であります。

2 店舗施設(コメダ珈琲店舗を除く。)については、連結子会社の(株)アイエーに賃貸しております。

3 帳簿価額には、建設仮勘定を含めておりません。

(2) 連結子会社  
(株)アイエー

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	リース資 産	その他	合計	
東戸塚店 (横浜市戸塚区)	カー用品事業	オートバックス店舗 (賃借店舗)	50,534			3,867	54,401	22
港北インター (横浜市都筑区)	カー用品事業	オートバックス店舗 (賃借店舗)	7,429		10,178	5,880	23,488	14
横浜港南台店 (横浜市港南区)	カー用品事業	オートバックス店舗 (賃借店舗)	8,828			2	8,831	10
横須賀佐原店 (神奈川県横須賀市)	カー用品事業	オートバックス店舗 建物	111,072			251	111,323	19
駒岡店 (横浜市鶴見区)	カー用品事業	オートバックス店舗 (賃借店舗)	3,039		5,037	1,879	9,956	11
妻田店 (神奈川県厚木市)	カー用品事業	オートバックス店舗 (賃借店舗)	5,527			2,060	7,587	12
寒川店 (神奈川県高座郡 寒川町)	カー用品事業	オートバックス店舗 (賃借店舗)	13,056			0	13,056	10
藤沢柄沢店 (神奈川県藤沢市)	カー用品事業	オートバックス店舗 (賃借店舗)	6,982			414	7,397	24
多摩境店 (東京都町田市)	カー用品事業	オートバックス店舗 (賃借店舗)	5,444			4,215	9,659	20
SA十日市場 (横浜市緑区)	カー用品事業	スーパーオートバックス 店舗 (賃借店舗)	31,284		6,554	615	38,453	23
川崎さいわい店 (川崎市幸区)	カー用品事業	オートバックス店舗 (賃借店舗)	0		0	0	0	15
梶ヶ谷店 (川崎市高津区)	カー用品事業	オートバックス店舗 (賃借店舗)	1,455		1,845	5,049	8,350	11
相模原店 (相模原市中央区)	カー用品事業	オートバックス店舗 (賃借店舗)	7,342			3,327	10,669	18
町田店 (東京都町田市)	カー用品事業	オートバックス店舗 (賃借店舗)	2,628		1,865	3,086	7,580	13
SA岐阜店 (岐阜県岐阜市)	カー用品事業	スーパーオートバックス 店舗 建物	18,043		2,076	21,885	42,005	27
岐阜北店 (岐阜県岐阜市)	カー用品事業	オートバックス店舗 建物	49,375			2,548	51,923	15
可児店 (岐阜県可児市)	カー用品事業	オートバックス店舗 (賃借店舗)	2,955		10,716	5,618	19,289	14
関店 (岐阜県関市)	カー用品事業	オートバックス店舗 建物	18,991			2,709	21,701	14
各務原店 (岐阜県各務原市)	カー用品事業	オートバックス店舗 (賃借店舗)	1,835		9,182	5,344	16,362	8

(注) SAはスーパーオートバックスの略であります。

(株)アイエーオートボックス

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	リース資 産	その他	合計	
多賀城店 (宮城県多賀城市)	カー用品事業	オートボックス店舗 (賃借店舗)	848		1,166	8,056	10,071	11
古川店 (宮城県大崎市)	カー用品事業	オートボックス店舗 (賃借店舗)	2,617		7,926	476	11,020	13
石巻店 (宮城県石巻市)	カー用品事業	オートボックス店舗 (賃借店舗)	0			0	0	12
仙台吉成店 (宮城県仙台市)	カー用品事業	オートボックス店舗 (賃借店舗)	5,488		19,349	432	25,270	11
岩沼バイパス店 (宮城県名取市)	カー用品事業	オートボックス店舗 (賃借店舗)	0				0	9
286根岸店 (宮城県仙台市)	カー用品事業	オートボックス店舗 (賃借店舗)	0				0	11
SA仙台泉加茂店 (宮城県仙台市)	カー用品事業	スーパーオートボックス 店舗 (賃借店舗)	0			4,747	4,747	19
SA仙台ルート45 (宮城県仙台市)	カー用品事業	スーパーオートボックス 店舗 (賃借店舗)	0			0	0	21
富谷店 (宮城県富谷市)	カー用品事業	オートボックス店舗 (賃借店舗)	0			0	0	8
大和吉岡店 (宮城県黒川郡)	カー用品事業	オートボックス店舗 (賃借店舗)	0				0	8
大河原店 (宮城県柴田郡)	カー用品事業	オートボックス店舗 (賃借店舗)	0			0	0	6
秋田仁井田店 (秋田県秋田市)	カー用品事業	オートボックス店舗 (賃借店舗)	700		3,221	1,279	5,201	15
大館中央店 (秋田県大館市)	カー用品事業	オートボックス店舗 (賃借店舗)	0			0	0	10
横手インター店 (秋田県横手市)	カー用品事業	オートボックス店舗 (賃借店舗)	0			0	0	6
秋田大曲店 (秋田県大仙市)	カー用品事業	オートボックス店舗 (賃借店舗)	0				0	9

(注) SAはスーパーオートボックスの略であります。

(株)アルカンシエル

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	リース資 産	その他	合計	
アルカンシエルガーデン名古屋 (名古屋市港区)	ブライダル 事業	婚礼施設	553,761			20,503	574,265	28
アルカンシエル ベリテ大阪 (大阪市此花区)	ブライダル 事業	婚礼施設	269,407			15,043	284,450	40
アルカンシエル横浜リユクス マリアージュ (横浜市港北区)	ブライダル 事業	婚礼施設	0			0	0	23
アルカンシエルリユクスマリ アージュ名古屋 (名古屋市西区)	ブライダル 事業	婚礼施設	964,005			12,658	976,663	55
アルカンシエルリユクスマリ アージュ大阪 (大阪市淀川区)	ブライダル 事業	婚礼施設	1,605,441		6,018	34,193	1,645,653	37
アルカンシエル南青山 (東京都港区)	ブライダル 事業	婚礼施設	990,685			0	990,685	34
アルカンシエル金沢 (石川県金沢市)	ブライダル 事業	婚礼施設	333,905		2,069	35,251	371,226	14

上記の他、主要な設備のうち連結会社以外から賃借している設備の内容は、下記のとおりであります。

1 土地、建物の賃借による主要な設備

(1) 提出会社

事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	土地面積 (㎡)	年間賃料 (千円)
オートボックス海老名 (神奈川県海老名市) 他6店舗	その他の事業	土地	29,647.4	270,773

(2) 連結子会社  
株式会社アイエー

事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	土地面積 (㎡)	年間賃料 (千円)
オートバックス東戸塚店 (横浜市戸塚区) 他17店舗	カー用品事業	土地・建物	58,784.2	754,315
オートバックス横須賀佐原店 (神奈川県横須賀市) 他3店舗	カー用品事業	土地	10,239.8	90,828

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

株式会社アイエーオートバックス

事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	土地面積 (㎡)	年間賃料 (千円)
オートバックス多賀城店 (宮城県多賀城市) 他14店舗	カー用品事業	土地・建物	57,385.6	22,542

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

株式会社アルカンシエル

事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	土地面積 (㎡)	年間賃料 (千円)
アルカンシエルガーデン名古屋 (名古屋市港区) 他3店舗	ブライダル事業	土地	42,967.9	394,472
アルカンシエル横浜 リュクスマリアージュ (横浜市港北区) 他2店舗	ブライダル事業	土地・建物	4,360	485,026

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3【設備の新設、除却等の計画】

- (1) 重要な設備の新設等  
該当事項はありません。
- (2) 重要な設備の除却等  
該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	5,348,800
計	5,348,800

(注)平成29年6月23日開催の第34回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。これにより、発行可能株式総数は21,395,200株減少し、5,348,000株となっております。

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成30年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年6月26日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	1,645,360	1,645,360	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	1,645,360	1,645,360		

(注)平成29年6月23日開催の第34回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行うとともに、単元株式数を1,000株から100株に変更しております。これにより、発行済株式総数は6,581,440株減少し、1,645,360株となっております。

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

( 3 ) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】  
該当事項はありません。

( 4 ) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成28年5月31日 (注1)	1,900,000	8,226,800		1,314,100		1,824,791
平成29年10月1日 (注2)	6,581,440	1,645,360		1,314,100		1,824,791

(注1) 自己株式の消却による減少

(注2) 株式併合(普通株式5株につき1株の割合で併合)による減少

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(名)		3	9	22	9		690	733	-
所有株式数(単元)		56	68	6,363	1,688		8,143	16,318	13,560
所有株式数の割合(%)		0.4	0.4	39.0	10.3		49.9	100.0	-

- (注) 1 自己株式124,551株は、「個人その他」に1,245単元、「単元未満株式の状況」に51株含まれております。  
2 平成29年6月23日開催の第34回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で1単元の株式数は1,000株から100株となっております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
有限会社草創	横浜市戸塚区品濃町545 5	580	38.2
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内2-7-1)	118	7.8
古川 教 行	横浜市保土ヶ谷区	48	3.2
古川 恵 子	横浜市保土ヶ谷区	48	3.2
小 黒 良太郎	東京都品川区	46	3.1
田 畑 憲 士	横浜市旭区	38	2.5
株式会社オートバックスセブン	東京都江東区豊洲5 6 52	36	2.4
川 井 一 秀	岐阜県羽島郡岐南町	31	2.1
小 黒 美樹子	東京都品川区	30	2.0
内 藤 征 吾	東京都中央区	30	2.0
計		1,008	66.3

- (注) 株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日に株式会社三菱UFJ銀行に商号変更しております。



(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 124,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式1,507,300	15,073	
単元未満株式	普通株式 13,560		
発行済株式総数	1,645,360		
総株主の議決権		15,073	

(注)1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式51株が含まれております。

2 平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。これにより、発行済株式総数は6,581,440株減少し、1,645,360株となっております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
アイエーグループ株式会社	横浜市戸塚区品濃町545 5	124,500		124,500	7.6
計		124,500		124,500	7.6

(注)平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号による普通株式の取得、会社法第155条第7号による普通株式の取得及び会社法第155条第9号による普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

会社法第155条第3号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成29年5月12日)での決議状況 (取得期間 平成29年5月15日～平成29年9月30日)	100,000	80,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	100,000	68,779,000
残存議決株式の総数及び価額の総額		11,221,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		14.0
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)		14.0

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成29年11月6日)での決議状況 (取得期間 平成29年11月7日～平成30年3月31日)	20,000	100,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	3,200	12,131,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	16,800	87,869,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	84.0	87.9
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	84.0	87.9

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成30年5月11日)での決議状況 (取得期間 平成30年5月14日～平成30年10月31日)	20,000	100,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式		
残存決議株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		
当期間における取得自己株式	10,500	40,419,500
提出日現在の未行使割合(%)	52.5	40.4

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの会社法第165条第3項の取締役会決議に基づく自己株式の取得株式数は含まれておりません。

会社法第155条9号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成29年10月20日)での決議状況 (取得日 平成29年10月20日)	24	20,136
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	24	20,136
残存決議株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)		

(注) 1. 平成29年10月1日付の株式併合により生じた1株に満たない端数の処理につき、会社法第235条第2項、第234条第4項及び第5項の規定に基づく自己株式の買取りを行ったものです。

2. 買取単価は、買取日の株式会社東京証券取引所における当社株式の終値であります。

( 3 ) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	837	702,058
当期間における取得自己株式	28	108,640

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

( 4 ) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(株式併合による減少)	485,139			
保有自己株式数	124,551		135,079	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数及び会社法第165条第3項の取締役会決議に基づく自己株式の取得株式数は含めておりません。

### 3【配当政策】

当社は、安定的な経営基盤の確保と株主資本利益率の向上に努めるとともに、配当につきましても安定的な配当の継続を業績に応じて行うことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、この方針のもと1株当たり60.0円とし、中間配当(12.0円)と合わせて72.0円としております。

内部留保金につきましては、経営体質の一層の充実ならびに今後の事業展開に活用していくこととしております。なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成29年11月6日 取締役会決議	91,444	12.0
平成30年5月11日 取締役会決議	91,248	60.0

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第31期	第32期	第33期	第34期	第35期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	763	849	850	737	4,155 (717)
最低(円)	620	700	688	615	3,380 (638)

(注) 1 最高・最低株価は、平成25年7月16日より東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。それ以前は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

2 平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。第35期の株価については株式併合後の最高・最低株価を記載し、( )内に株式併合前の最高・最低株価を記載しております。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年 10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	3月
最高(円)	4,155	3,940	3,790	3,860	3,920	3,845
最低(円)	3,520	3,640	3,675	3,710	3,665	3,545

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5【役員の状況】

男性 10名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		古川 教行	昭和19年2月1日生	昭和37年4月 横浜いすゞモーター(株)[現・いすゞ自動車首都圏(株)]入社 昭和59年3月 当社設立 代表取締役社長(現任) 平成元年7月 (株)アイディーエム設立 代表取締役社長 平成4年3月 (有)草創設立 取締役(現任) 平成20年4月 (株)アイエー 代表取締役社長 平成24年3月 (株)アイエー 代表取締役 平成24年5月 (株)アイエー 取締役	(注)3	48
取締役 副社長		田畑 憲士	昭和30年4月3日生	昭和49年10月 横浜いすゞモーター(株)[現・いすゞ自動車首都圏(株)]入社 昭和59年3月 当社設立 取締役 平成元年7月 (株)アイディーエム設立 代表取締役 平成3年4月 当社常務取締役開発本部長 平成4年8月 (株)アイディーエム代表取締役社長 平成12年10月 当社専務取締役関連会社所管兼開発部所管 平成20年4月 (株)アイエー取締役 平成20年10月 当社取締役副社長(現任) 平成21年5月 (株)アイディーエム取締役(現任) 平成24年3月 (株)IAGアセット取締役 平成26年5月 (株)アルカンシエル取締役 平成27年3月 (株)アルカンシエル代表取締役副社長 平成28年4月 当社取締役副社長社長補佐、 マスタープラン推進担当(現任) 平成30年4月 (株)IAGアセット取締役(現任)	(注)3	38
専務取締役		小野 敦	昭和38年12月8日生	昭和62年4月 大和ハウス工業(株)入社 平成6年10月 当社入社 平成7年10月 当社開発部長 平成15年6月 当社取締役商品部長兼総務部長 平成20年10月 (株)アイエー常務取締役営業副本部長兼商品部長 平成23年2月 当社社長付 平成23年6月 当社常務取締役 平成24年5月 (株)アルカンシエル取締役 平成25年5月 (株)アルカンシエルプロデュース取締役 平成27年4月 当社専務取締役 平成27年5月 (株)アルカンシエル取締役 平成28年4月 当社専務取締役社長補佐、 プライダル事業管掌(現任) 平成29年4月 (株)アルカンシエル専務取締役 (株)アルカンシエル代表取締役副社長(現任)	(注)3	1
取締役	経理財務 部長	岡野 良信	昭和36年4月15日生	昭和60年4月 東部いすゞ自動車販売(株)[現・いすゞ自動車首都圏(株)]入社 平成3年4月 当社入社 平成12年2月 当社管理部長 平成15年6月 当社取締役経理部長 平成23年2月 当社取締役経理財務部長 平成27年4月 当社取締役経理財務部長、内部統制担当(現任)	(注)3	6

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	開発部長	足立 浩二	昭和39年10月11日生	平成8年4月 当社入社 平成13年4月 当社開発部長 平成17年4月 (株)アイディーエム取締役 平成17年6月 (株)パーソンズ取締役 平成19年4月 (株)アイディーエムメンテナンス[現(株)IAGコンストラクション]代表取締役社長(現任) 平成21年5月 (株)アルカンシエル取締役 平成24年3月 (株)IAGアセット取締役 平成24年5月 (株)IAGアセット常務取締役 平成25年4月 (株)エフ・エム・クラフト取締役(現任) 当社取締役開発部長 平成26年6月 当社取締役開発部長、不動産事業管掌(現任) 平成28年4月 (株)アイディーエム代表取締役社長 平成29年4月 (株)IAGアセット取締役 平成29年4月 (株)アイディーエム常務取締役(現任) 平成30年4月 (株)IAGアセット常務取締役(現任)	(注)3	1
取締役		藤井 敏光	昭和37年3月27日生	昭和59年3月 当社入社 平成6年6月 当社取締役店舗運営部長 平成7年4月 当社取締役営業部長 平成14年2月 当社取締役スーパーオートバックス十日市場ゼネラルマネージャー 平成17年2月 当社取締役営業管理部長 平成19年2月 当社取締役県央エリア事業部長 平成20年8月 当社取締役フレンド21担当 平成20年8月 (株)アイエー取締役 平成20年10月 (株)アイエー常務取締役岐阜支社長 平成23年2月 (株)アイエー常務取締役営業副本部長兼商品部長 平成24年2月 (株)アイエー専務取締役営業本部長 平成24年6月 当社取締役 平成26年5月 (株)オートバックス神奈川取締役 平成27年3月 (株)アイエー取締役副社長営業本部長(現任) 平成28年4月 当社取締役カー用品事業管掌(現任)	(注)3	6
取締役		佐野 尚見	昭和18年4月2日生	昭和41年4月 松下電器産業(株)[現・パナソニック(株)]入社 平成10年6月 同社取締役 平成17年6月 同社代表取締役副社長 平成20年10月 公益財団法人松下政経塾 塾長 平成21年4月 同財団 理事長(現任) 平成28年6月 当社取締役(現任)	(注)1,3	
常勤監査役		野村 光夫	昭和36年3月12日生	昭和56年4月 富士急トラベル(株)入社 平成元年2月 当社入社 平成15年6月 当社取締役オートバックス営業部長 平成17年2月 当社取締役港南エリア事業部長 平成18年2月 当社取締役リクルート室長 平成19年2月 当社取締役総務部長兼リクルート室長 平成20年10月 当社取締役人事部長 平成23年2月 (株)アイエー取締役岐阜支社長 平成24年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)4	0
監査役		今成 達之	昭和18年11月6日生	昭和42年4月 西山法律・会計事務所入所 昭和45年7月 シェル石油(株)[現・昭和シェル石油(株)]入社 昭和58年9月 同社監査部 平成25年6月 当社監査役(現任)	(注)2,5	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役		齊藤 浩司	昭和27年10月18日生	昭和55年10月 平成3年9月 平成9年9月 平成19年7月 平成24年5月 平成29年9月 平成30年6月	監査法人中央会計事務所入所 中央新光監査法人 社員就任 中央監査法人 代表社員 監査法人A&Aパートナーズ 代表社員 A&Aコンサルティング(株) 取締役 齊藤浩司公認会計士事務所 代表 (現任) 当社監査役(現任)	(注)2,6	
計							101

- (注) 1 取締役佐野尚見は、社外取締役であります。
- 2 監査役今成達之及び齊藤浩司は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 常勤監査役の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役今成達之の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成33年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 監査役齊藤浩司の任期は、平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成33年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 1 企業統治の体制

##### ・ 企業統治の体制の概要

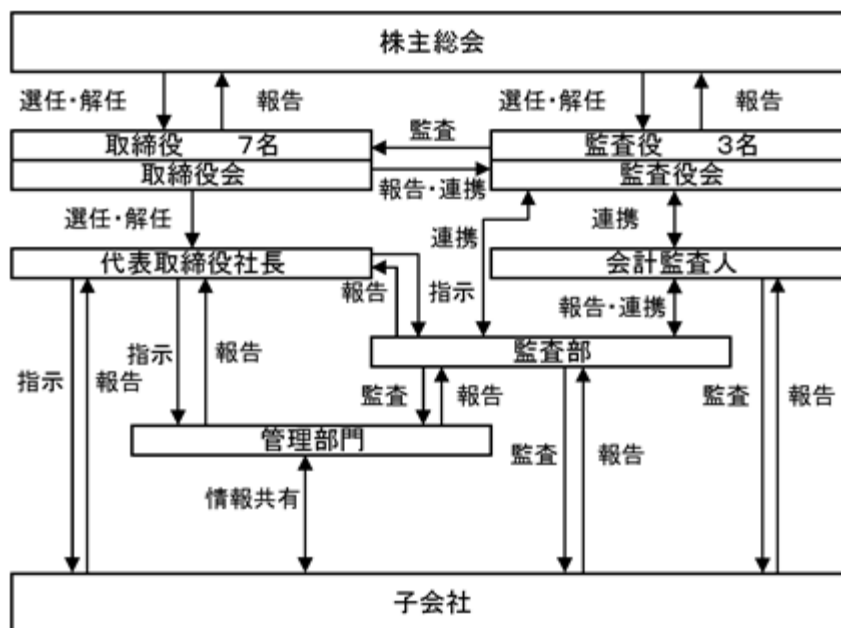
当社の取締役会は、平成30年6月26日現在、取締役7名（うち、社外取締役1名）で構成され、定例の他、必要に応じて開催されており、重要な業務執行の決定を行うとともに、代表取締役の職務の執行を監督しております。

監査役会は、3名（うち社外監査役2名）で構成され、取締役会その他重要な会議に出席し、経営全般又は個別案件に関する客観的かつ公正な意見陳述を行うとともに、監査役会で立案した監査計画に従い、取締役の業務執行に対する適法性を監査しております。

また、監査役監査に加え、監査部が内部監査を行っております。

会計監査に関しては、会計監査人として、監査法人A & Aパートナーズと会計監査契約を締結しております。

日常発生する法律問題全般に関しては、弁護士 廣澤幹久氏と顧問契約を締結し、必要に応じてアドバイスを受けております。



##### ・ 企業統治の体制を採用する理由

当社は、当社を取り巻く市場環境の変化に対応するため、7名の取締役（うち、社外取締役1名）による迅速な意思決定と取締役会の活性化を図り、経営の迅速化と効率的な経営システムの構築を図っております。

当社の社外取締役は、客観的視点での陳述等により、当社への経営参画及び取締役会への監督機能の強化を行います。

また、監査役3名のうち、2名が社外監査役（うち、1名は独立役員）であり、業務監査及び監査役監査の実施により経営監視機能の客観性及び中立性の確保については、十分に機能する体制が整っているものと判断しております。

##### ・ 内部統制システムの整備の状況

当社および当社子会社の取締役および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

当社グループは、企業が存立を継続するためにはコンプライアンスの徹底が必要不可欠であるとの認識のもと、すべての取締役および従業員が公正で高い倫理観に基づいて行動し、広く社会から信頼される経営体制の確立に努めてまいります。

また、当社グループは、定期的を実施する内部監査を通じて、会社の業務実施状況の実態を把握し、すべての業務が法令、定款および社内諸規程に準拠して適正・妥当かつ合理的に行われているかを調査・検証することにより、会社財産の保全ならびに経営効率の向上に努めてまいります。



当社および当社子会社の損失の危険管理に関する規程その他の体制

当社グループは、リスク管理の推進に関して、リスクに係る規程を設定、運用を図っております。リスクが現実化し、重大な損害の発生が予測される場合は、監査部長は速やかに社長ならびに取締役会に報告し、有事においては、社長を本部長とする「緊急対策本部」が統括して危機管理にあたることとしております。

当社および当社子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社グループは、環境変化に対応した会社全体の将来ビジョンと目標を定めるため、中期経営計画および各年度事業計画を立案し、経営計画を達成するため、取締役の職務権限と担当業務を明確にし、職務執行の効率化を図っております。

当社および当社子会社の取締役の職務執行に係る情報の保管および管理に関する事項

当社グループは、取締役会をはじめとする重要な会議の意思決定に係る記録や、各取締役が職務権限規程に基づいて決裁した文書等、取締役の職務の執行に係る情報を適正に記録し、法令および「文書取扱規程」に従い定められた期間保存しております。

当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

当社は、「事業会社管理規程」に基づき、事業会社に対する適切な経営管理を行っております。

また、当社グループは、毎月1回、当社および当社子会社の取締役が出席するグループ月次経営会議を開催し、当社グループにおける重要な事象が報告され対応を協議しております。

当社子会社の規模・業容、グループ全体に占めるウェイト等を考慮しつつ、子会社に対する適宜、適切な内部監査・検査を当社監査部が定期的を実施することにより、当社グループにおける業務の適正を確保しております。

当社の取締役および従業員ならびに当社子会社の取締役、監査役および従業員またはこれらの者から報告を受けた者が、当社監査役に報告するための体制

監査役は、取締役会等重要な会議に出席し、当社グループの取締役および従業員から重要事項の報告を受けております。

当社の取締役および従業員ならびに当社子会社の取締役、監査役および従業員は、各監査役の要請に応じて必要な報告および情報提供を行うとともに、当社グループの経営に重大な影響を及ぼす事項が発生または、発生する虞がある場合は、遅滞なく報告しております。

前項の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

当社および当社子会社は、上記の報告を行った当社および当社子会社の取締役、監査役ならびに従業員に対し、当該報告を行ったことを理由として、解雇その他いかなる不利益な取り扱いを行いません。

監査役の職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項

監査役がその職務の執行について生ずる費用の前払い等の請求をしたときは、担当部門において審議のうえ、監査役の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き速やかに当該費用または債務を処理しております。

その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

代表取締役社長と監査役は、相互の意思疎通を図るため、定期的な会合をもつこととしております。

また、「内部監査規程」において、監査部長は監査役との密接な連携を保つよう努めなければならない旨を定め、監査役監査の実効性の確保を図っております。

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

当社および当社グループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対して毅然とした姿勢で臨み、不当・不正な要求を断固拒絶するとともに、反社会的勢力との関係を遮断することに努め、公共の信頼を維持し、適切かつ健全な業務の遂行を確保しております。

また、反社会的勢力による不当要求等に備えて組織体制を整備するとともに、警察・暴力追放運動推進センター・弁護士等の外部専門機関と密接な連携関係を構築しております。

反社会的勢力による不当要求等がなされた場合には、役職員の安全を最優先に確保するとともに、担当者や担当部署に任せることなく組織的な対応を行ってまいります。

また、いかなる形態であっても反社会的勢力に対する資金提供や事実を隠蔽するための取引は行わず、民事と刑事両面からの法的対応を行ってまいります。

2 内部監査及び監査役監査の組織、人員及び手続き並びに内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係

内部監査

監査部（3名）で実施しております。監査部は、内部監査計画に基づき業務全般にわたり監査を実施しております。監査結果は代表取締役社長に直接報告し、被監査部門に対して監査結果を踏まえて改善指示を行っております。

監査役監査

監査役3名（うち社外監査役2名）で実施しております。監査役は、取締役会その他重要な会議に出席し、経営全般又は個別案件に関する客観的かつ公正な意見陳述を行うとともに、監査役会で立案した監査計画に従い、取締役の業務執行に対する適法性を監査しております。

監査の相互連携

監査役は、会計監査人の監査結果報告の他、定期的に会計監査人と意見交換を行っております。

監査部は、監査計画に基づき定期的に内部統制部門の監査を行い、監査結果を代表取締役社長及び監査役へ報告しております。

3 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

社外取締役佐野尚見は、経営者としての豊富な経験、実績、見識を生かし、当社の事業活動に有益な助言をいただけるものと確信し、またコーポレートガバナンスの視点からも望ましい人物であると判断しております。

社外監査役今成達之は、監査業務及び経理業務の経験があり、幅広い知識と豊富な知見を有していることから社外監査役としての監査機能及び役割を果たしていただけたと考えております。なお、当社と同氏の間には人的関係、資本的関係及び重要な取引関係その他の利害関係はないものと判断しております。

社外監査役齊藤浩司は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。これらの知識・経験等を、法令及び定款の遵守に係る見地から当社の監査業務に活かしていただけたと考えております。なお、当社と同氏の間には人的関係、資本的関係及び重要な取引関係その他の利害関係はないものと判断しております。

なお、今成達之は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

当社は、社外取締役及び社外監査役の選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣から独立した立場での社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。また、当社は社外取締役及び社外監査役による監督又は監査が効果的に実施されるよう、監査部、内部統制部門、会計監査人との円滑なコミュニケーションを図り、社外取締役及び社外監査役に対して、内部統制システムの状況や内部監査に関する情報が適時適切に伝達されるよう努めております。

当社は、社外取締役および社外監査役の全員との間で、会社法第427条第1項の規定により、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める最低責任限度額としております。

4 役員報酬等

イ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	賞与	役員退職慰労引 当金繰入	
取締役 (社外取締役を除く。)	145,800	95,800		50,000	7
監査役 (社外監査役を除く。)	6,950	6,950			1
社外役員	4,800	4,800			3

ロ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

平成26年6月20日開催の第31期定時株主総会において取締役の報酬限度額は、年額300,000千円以内（ただし、使用人分給与は含まない。）、監査役の報酬限度額は、平成6年6月15日開催の第15期定時株主総会決議において、年額50,000千円以内と決議いただいております。

5 業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人及び提出会社に係る継続監査の年数、監査業務に係る補助者の構成

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人	継続監査年数(年)	補助者の構成
業務執行社員 坂本裕子	監査法人A & Aパートナーズ	(注)	公認会計士9名
業務執行社員 寺田聡司	監査法人A & Aパートナーズ	(注)	その他3名

(注) 継続監査年数が7年以内であるため、記載を省略しております。

6 定款における取締役の定数又は取締役の資格制限についての定め  
 当社の取締役は15名以内とする旨を定款に定めております。

7 取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は、累積投票によらない旨を定めております。また、解任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

8 株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとした場合の内容及びその理由

当社は、自己株式の取得について経済情勢の変化に対応して財務政策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

当社は、機動的に剰余金の配当ができるように、取締役会決議によって、会社法第459条第1項に掲げる事項を定めることができる旨を定款に定めております。

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

9 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

10 株式の保有状況

投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

提出会社

2 銘柄 129,097千円

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

提出会社

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)オートボックスセブン	64,616	106,746	当社の連結子会社である(株)アイエーのフランチャイザーであるための保有

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)オートボックスセブン	64,692	128,997	当社の連結子会社である(株)アイエーのフランチャイザーであるための保有

( 2 ) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	26,000	-	26,000	
連結子会社	-	-		
計	26,000	-	26,000	

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

監査日程を勘案し、監査法人との協議のうえ、監査報酬を決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について監査法人A&Aパートナーズにより監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するため、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準の変更等の情報を入手し、対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1 1,096,058	1 1,674,806
売掛金	1,088,666	1,382,322
たな卸資産	3 5,917,711	3, 4 8,243,652
繰延税金資産	370,845	343,294
その他	775,397	905,619
流動資産合計	9,248,679	12,549,695
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1 8,461,525	1, 4 7,327,789
土地	1 5,127,543	1, 4 4,969,703
リース資産（純額）	170,787	146,502
建設仮勘定	-	8,071
その他（純額）	438,531	357,374
有形固定資産合計	2 14,198,388	2 12,809,441
無形固定資産		
電話加入権	7,476	9,258
のれん	178,179	92,637
その他	149,034	128,191
無形固定資産合計	334,690	230,087
投資その他の資産		
投資有価証券	1 140,919	1 140,195
長期貸付金	22,870	22,870
長期前払費用	365,113	244,130
差入保証金	5,219,568	4,788,244
繰延税金資産	732,514	1,053,416
その他	136,034	141,950
貸倒引当金	22,870	22,870
投資その他の資産合計	6,594,151	6,367,938
固定資産合計	21,127,229	19,407,466
資産合計	30,375,909	31,957,161

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	1,182,348	1,639,029
短期借入金	1,378,145	1,526,544
リース債務	59,766	93,427
未払法人税等	261,161	557,287
未払消費税等	144,641	112,414
繰延税金負債	61,991	60,414
未成工事受入金	32,349	381,123
賞与引当金	373,677	397,902
役員賞与引当金	13,400	27,400
ポイント引当金	180,668	148,907
その他	1,850,224	2,117,013
流動負債合計	7,941,373	10,801,464
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,551,310	1,416,557
リース債務	113,973	162,173
繰延税金負債	14,493	162,807
長期預り保証金	1,122,154	1,095,581
役員退職慰労引当金	300,000	350,000
退職給付に係る負債	398,697	437,764
資産除去債務	1,057,242	1,289,762
その他	1,415	12,401
固定負債合計	8,521,077	7,677,049
負債合計	16,462,451	18,478,513
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,314,100	1,314,100
資本剰余金	1,824,791	1,824,791
利益剰余金	11,084,579	10,685,072
自己株式	337,274	418,884
株主資本合計	13,886,195	13,405,079
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	28,237	43,826
繰延ヘッジ損益	974	229
その他の包括利益累計額合計	27,262	43,597
非支配株主持分	-	29,972
純資産合計	13,913,458	13,478,648
負債純資産合計	30,375,909	31,957,161



【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	33,968,950	32,822,971
売上原価	<sup>1</sup> 19,286,105	<sup>1</sup> 18,252,849
売上総利益	14,682,844	14,570,122
販売費及び一般管理費		
従業員給料	3,425,582	3,422,739
賞与引当金繰入額	332,251	325,085
貸倒引当金繰入額	462	-
退職給付費用	32,186	60,903
役員賞与引当金繰入額	13,400	27,400
役員退職慰労引当金繰入額	50,000	50,000
賃借料	2,645,719	2,494,212
その他	7,469,309	7,298,059
販売費及び一般管理費合計	13,967,987	13,678,400
営業利益	714,857	891,722
営業外収益		
受取利息及び配当金	30,858	28,839
受取手数料	60,252	57,800
受取販売奨励金	36,956	-
受取賃貸料	133,756	23,478
その他	65,000	73,908
営業外収益合計	326,824	184,026
営業外費用		
支払利息	45,895	44,991
その他	25,478	17,325
営業外費用合計	71,373	62,317
経常利益	970,307	1,013,431
特別利益		
事業譲渡益	<sup>2</sup> 24,981	-
固定資産売却益	<sup>3</sup> 337	<sup>3</sup> 2,646
投資有価証券売却益	16,911	415,750
特別利益合計	42,230	418,396
特別損失		
店舗閉鎖損失	116,442	-
固定資産除却損	<sup>4</sup> 17,119	<sup>4</sup> 3,469
固定資産売却損	-	<sup>5</sup> 98
減損損失	-	<sup>6</sup> 1,254,787
その他	-	10,999
特別損失合計	133,562	1,269,355
税金等調整前当期純利益	878,976	162,472
法人税、住民税及び事業税	359,549	687,664
法人税等調整額	186,710	306,436
法人税等合計	546,259	381,227
当期純利益又は当期純損失( )	332,716	218,755
非支配株主に帰属する当期純損失( )	-	3,347
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に 帰属する当期純損失( )	332,716	215,407

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益又は当期純損失( )	332,716	218,755
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18,363	15,589
繰延ヘッジ損益	1,421	745
その他の包括利益合計	1 16,942	1 16,334
包括利益	315,774	202,421
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	315,774	199,073
非支配株主に係る包括利益	-	3,347

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,314,100	1,824,791	12,102,356	1,177,716	14,063,530
当期変動額					
剰余金の配当			192,798		192,798
親会社株主に帰属する 当期純利益			332,716		332,716
自己株式の取得				317,253	317,253
自己株式の消却			1,157,695	1,157,695	-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	1,017,777	840,441	177,335
当期末残高	1,314,100	1,824,791	11,084,579	337,274	13,886,195

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	46,600	2,395	44,205	-	14,107,736
当期変動額					
剰余金の配当					192,798
親会社株主に帰属する 当期純利益					332,716
自己株式の取得					317,253
自己株式の消却					-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	18,363	1,421	16,942	-	16,942
当期変動額合計	18,363	1,421	16,942	-	194,277
当期末残高	28,237	974	27,262	-	13,913,458

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,314,100	1,824,791	11,084,579	337,274	13,886,195
当期変動額					
剰余金の配当			184,098		184,098
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）			215,407		215,407
自己株式の取得				81,609	81,609
自己株式の消却					
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	399,506	81,609	481,116
当期末残高	1,314,100	1,824,791	10,685,072	418,884	13,405,079

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	28,237	974	27,262	-	13,913,458
当期変動額					
剰余金の配当					184,098
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）					215,407
自己株式の取得					81,609
自己株式の消却					
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	15,589	745	16,334	29,972	46,306
当期変動額合計	15,589	745	16,334	29,972	434,809
当期末残高	43,826	229	43,597	29,972	13,478,648

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	878,976	162,472
減価償却費	1,202,479	1,128,550
長期前払費用償却額	17,028	16,180
店舗閉鎖損失	116,442	-
その他の償却額	25,268	42,020
減損損失	-	1,254,787
のれん償却額	85,542	98,634
役員賞与引当金の増減額（は減少）	34,600	14,000
賞与引当金の増減額（は減少）	23,914	15,426
貸倒引当金の増減額（は減少）	462	-
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	11,147	39,067
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	50,000	50,000
ポイント引当金の増減額（は減少）	11,740	54,306
受取利息及び受取配当金	30,858	28,839
支払利息	45,895	44,991
固定資産売却損益（は益）	337	2,548
固定資産除却損	17,119	3,469
事業譲渡損益（は益）	24,981	-
投資有価証券売却損益（は益）	16,911	415,750
売上債権の増減額（は増加）	56,300	281,055
たな卸資産の増減額（は増加）	173,676	1,547,627
仕入債務の増減額（は減少）	111,293	456,681
未成工事受入金の増減額（は減少）	42,907	348,773
未払消費税等の増減額（は減少）	237,492	149,949
その他	259,044	247,747
小計	1,885,333	1,411,873
利息及び配当金の受取額	5,111	4,099
利息の支払額	47,081	43,071
リース契約解除に伴う支払額	14,473	-
法人税等の支払額	508,106	400,710
法人税等の還付額	33,869	113,704
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,354,652	1,085,896

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	164,501	998,017
有形固定資産の売却による収入	337	3,274
無形固定資産の取得による支出	60,688	30,287
投資有価証券の取得による支出	-	156
投資有価証券の売却による収入	42,160	438,750
子会社株式の売却による収入	-	33,320
定期預金の預入による支出	50,000	50,000
定期預金の払戻による収入	50,000	50,000
貸付金の回収による収入	2,108	-
事業譲渡による収入	21,559	-
長期前払費用の取得による支出	19,000	11,500
営業譲受による支出	-	124,180
差入保証金の差入による支出	1,234,379	275,965
差入保証金の回収による収入	242,564	655,786
その他	1,755	5,916
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,171,595</b>	<b>314,891</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	10,000	840,000
長期借入れによる収入	1,766,500	866,000
長期借入金の返済による支出	2,276,124	1,567,145
ファイナンス・リース債務の返済による支出	86,600	65,448
配当金の支払額	192,599	184,053
自己株式の取得による支出	317,253	81,609
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,116,077</b>	<b>192,256</b>
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	933,019	578,747
現金及び現金同等物の期首残高	1,979,077	1,046,058
現金及び現金同等物の期末残高	1,046,058	1,624,806

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1)連結子会社の数11社

連結子会社の名称

(株)アイエー

(株)アイエーオートボックス

(株)アイエーマネージメントサービス

(株)アルカンシエル

(株)アルカンシエルプロデュース

(株)アイディーエム

(株)アイディーエムパートナーズ

(株)IDMobile

(株)IAGアセット

(株)IAGコンストラクション

(株)エフ・エム・クラフト

平成30年1月11日付で、(株)アイエーオートボックスを設立しております。

(2)非連結子会社

該当事項はありません。

2 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1)重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ デリバティブ

時価法

ハ たな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

オートボックス商品

移動平均法による原価法

販売用車輛

個別法による原価法

販売用不動産及び未成工事支出金

個別法による原価法

原材料及び貯蔵品

最終仕入原価法による原価法

(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産（リース資産を除く）

建物（建物附属設備を除く）

定額法

建物以外の有形固定資産

定率法

平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、事業用定期借地契約による借地上の建物及び構築物につきましては、主に耐用年数を定期借地権の残存年数とした定額法によっております。

耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 2年～45年

ロ 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、耐用年数は、次のとおりであります。

ソフトウェア 5年

ハ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

ニ 長期前払費用

定額法

(3)重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収の可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

ハ 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

ニ ポイント引当金

顧客に付与されたポイントの使用による売上値引発生に備えるため、当連結会計年度末において将来使用されると見込まれる額を計上しております。

ホ 役員退職慰労引当金

役員の特別功労金支給に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4)退職給付に係る会計処理の方法

イ 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

なお、一部の連結子会社については退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

ロ 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

発生時に全額費用処理しております。



(5)重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

当連結会計年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。

ヘッジ対象・・・借入金

ヘッジ手段・・・金利スワップ、金利オプション

ハ ヘッジ方針

主に当社の「デリバティブ取引に関する内規」に基づき、金利変動リスクをヘッジしております。

ニ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。

ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(6)のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

(7)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8)その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1)概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2)適用予定日

平成34年3月期の期首から適用します。

(3)当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

ブライダル事業における契約解除に伴う違約金については、従来営業外収益の違約金収入に含めて表示していましたが、消費者団体からの要請を受け、違約金対象となるサービス範囲を見直したことを契機に、契約解除に至るまでの発生原価(売上原価)に対応させるため当連結会計年度から売上高に含めて表示することになりました。この変更に伴い、前連結会計年度の連結財務諸表について表示の組替えを行っております。この結果、違約金収入38,047千円を売上高に組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めておりました「投資有価証券売却損益(は益)」は金額的重要性により、当連結会計年度より区分掲記しました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に表示していた275,955千円は、「投資有価証券売却損益(は益)」16,911千円及び「その他」259,044千円として組み替えております。

( 連結貸借対照表関係 )

1 担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
預金	50,000千円	50,000千円
建物及び構築物	479,888	472,921
土地	2,313,870	2,313,870
投資有価証券	24,780	29,910
合計	2,868,539	2,866,701

上記に対応する債務

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	2,471,065千円	3,439,932千円
長期借入金	2,186,770	1,319,838
合計	4,657,835	4,759,770

2 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	11,081,134千円	13,417,985千円

なお、上記減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。

3 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
商品	2,130,106千円	2,546,055千円
販売用不動産	3,440,948	5,220,231
未成工事支出金	281,359	396,702
原材料及び貯蔵品	65,297	80,663

4 固定資産の保有目的の変更

当連結会計年度(平成30年3月31日)

連結子会社の建物(130,461千円)及び土地(157,840千円)を保有目的の変更によりたな卸資産(288,302千円)に振り替えており、全額たな卸資産に含まれております。

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は、収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
19,985千円	16,080千円

- 2 事業譲渡益の内容は、次のとおりであります。  
前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)  
ブライダル事業におけるリュクスガーデン岐阜の事業譲渡益であります。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)  
該当事項はありません。

- 3 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他 337	その他 2,646
合計 337	合計 2,646

- 4 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物 8,883千円	建物及び構築物 2,964千円
その他 8,235	その他 505
合計 17,119	合計 3,469

- 5 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他 -	その他 98
合計 -	合計 98

6 減損損失の内容は、次のとおりであります。

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

(1) 減損損失を認識した主な資産

場所	用途	種類
アルカンシエル横浜 (横浜市港北区)	アルカンシエル店舗設備	建物及び構築物、リース資産、その他
アルカンシエル南青山 (東京都港区)	アルカンシエル店舗設備	建物及び構築物、リース資産、その他
コメダ珈琲なぎさモール辻堂店 (神奈川県藤沢市)	コメダ珈琲店舗設備	建物及び構築物、リース資産、その他

(2) 減損損失の認識に至った経緯

上記店舗については、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであることから投資額の回収が見込まれない状況となったため、帳簿価額から備忘価額を残し全額を減損損失として特別損失に計上しました。

(3) 減損損失の金額及び内容

建物及び構築物	1,201,868千円
リース資産	9,702千円
その他	43,216千円
合計	1,254,787千円

(4) 資産のグルーピング方法

当社グループは、本社・店舗ごと、また賃貸用不動産については物件ごとにグルーピングをしております。

(5) 回収可能価額の算定方法

当該資産グループの回収可能価額は使用価値により算定しており、将来のキャッシュ・フローがマイナスのため、備忘価額により評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	9,199千円	437,845千円
組替調整額	16,911	415,750
税効果調整前	26,110	22,095
税効果額	7,746	6,506
その他有価証券評価差額金	18,363	15,589
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	2,035	1,085
組替調整額		
税効果調整前	2,035	1,085
税効果額	614	340
繰延ヘッジ損益	1,421	745
その他の包括利益合計	16,942	16,334

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	10,126,800		1,900,000	8,226,800

(変動事由の概要)

普通株式の株式数の減少1,900,000株は、自己株式の消却によるものであります。

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,932,858	472,771	1,900,000	505,629

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

取締役会決議に基づく自己株式取得による増加 470,000株

単元未満株式の買取りによる増加 2,771株

自己株式の株式数の減少1,900,000株は、自己株式の消却によるものであります。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年5月13日 取締役会	普通株式	98,327	12.0	平成28年3月31日	平成28年6月24日
平成28年11月4日 取締役会	普通株式	94,471	12.0	平成28年9月30日	平成28年12月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年5月12日 取締役会	普通株式	利益剰余金	92,654	12.0	平成29年3月31日	平成29年6月26日

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株）	8,226,800	-	6,581,440	1,645,360

（変動事由の概要）

普通株式の株式数の減少6,581,440株は、株式併合によるものであります。

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株）	505,629	104,061	485,139	124,551

（変動事由の概要）

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

取締役会決議に基づく自己株式取得による増加 103,200株（併合前100,000株、併合後3,200株）

単元未満株式の買取りによる増加 837株（併合前794株、併合後43株）

株式併合に伴う端数株式の買取りによる増加 24株

自己株式の株式数の減少485,139株は、株式併合によるものであります。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成29年5月12日 取締役会	普通株式	92,654	12.0	平成29年3月31日	平成29年6月26日
平成29年11月6日 取締役会	普通株式	91,444	12.0	平成29年9月30日	平成29年12月7日

（注）1株当たり配当額については、基準日が平成29年9月30日であるため、平成29年10月1日付の株式併合前の金額を記載しております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成30年5月11日 取締役会	普通株式	利益剰余金	91,248	60.0	平成30年3月31日	平成30年6月27日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）
現金及び預金勘定	1,096,058千円	1,674,806千円
預け期間3か月超の定期預金	50,000	50,000
現金及び現金同等物	1,046,058	1,624,806



(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

また、取引先企業等に対し長期貸付及び保証金の差入を行っております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、返済日は最長で決算日後7年であります。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引及び金利オプション取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジの有効性の評価方法等については、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4 会計方針に関する事項 (5) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

金融商品に係るリスク管理体制

イ 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）

当社は、営業債権、長期貸付金及び差入保証金について、担当部署が適時に主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を行っております。

連結子会社についても、当社の担当部署が同様の管理を行っております。

満期保有目的の債券は、格付けの高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

連結子会社についても、同様であります。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクは僅少であります。

ロ 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引方針及び取引権限等を定めた社内ルールに従い、資金担当部門が決済担当者の承認を得ております。

ハ 資金調達に係るリスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。連結子会社についても、当社の担当部署が同様の管理を行っております。

金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

平成29年3月31日における連結貸借対照表額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,096,058	1,096,058	
(2) 売掛金	1,088,666	1,088,666	
(3) 投資有価証券	116,669	116,771	101
(4) 長期貸付金	22,870		
貸倒引当金( 1 )	22,870		
(5) 差入保証金	5,219,568	5,185,674	33,893
資産計	7,520,963	7,487,171	33,792
(1) 買掛金	1,182,348	1,182,348	
(2) 短期借入金	3,781,145	3,781,145	
(3) リース債務(流動負債)	59,766	59,766	
(4) 未払法人税等	261,161	261,161	
(5) 長期借入金	5,513,101	5,500,813	12,287
(6) リース債務(固定負債)	113,973	113,513	460
(7) 長期預り保証金	1,023,349	1,018,536	4,812
負債計	11,934,846	11,917,285	17,560
デリバティブ取引( 2 )	1,415	1,415	

( 1 ) 長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

( 2 ) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務の純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については を付しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項  
資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

(4) 長期貸付金、(5) 差入保証金

長期貸付金及び差入保証金の時価の算定は、その将来キャッシュ・フローを信用リスクに応じた適切な利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、貸倒懸念債権については、同様の割引率による見積キャッシュ・フローの割引現在価値、又は、担保及び保証による回収見込額等により、時価を算定しております。

負 債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) リース債務(流動負債)、(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期借入金、(6) リース債務(固定負債)、(7) 長期預り保証金

長期借入金及びリース債務(固定負債)の時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

長期預り保証金の時価は、主に将来キャッシュ・フローに信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表価額(千円)
非上場株式( 1 )	24,250
長期預り保証金( 2 )	98,804

( 1 ) これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(3)投資有価証券」には含めておりません。

( 2 ) 賃貸物件における賃借人から預託されている預り保証金は、市場価格がなく、かつ、賃借人の入居から退去までの実質的な預託期間を算定することは困難であることから、合理的なキャッシュ・フローを見積もることが極めて困難と認められるため、「負債(7)長期預り保証金」に含めておりません。

(注) 3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,096,058	-	-	-
売掛金	1,088,666	-	-	-
投資有価証券				
満期保有目的の債券				
国債	-	10,025	-	-
差入保証金	92,706	2,043,413	579,770	2,503,677
合計	2,277,432	2,053,438	579,770	2,503,677

(注) 4 短期借入金、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	2,240,000	-	-	-	-	-
長期借入金	1,541,145	2,072,544	1,872,696	453,579	595,336	518,946
リース債務	59,766	52,591	33,520	18,115	7,010	2,734
合計	3,840,911	2,125,135	1,906,216	471,694	602,346	521,680

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

平成30年3月31日における連結貸借対照表額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（(注)2.参照）。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,674,806	1,674,806	
(2) 売掛金	1,382,322	1,382,322	
(3) 投資有価証券	138,945	139,042	96
(4) 長期貸付金	22,870		
貸倒引当金( 1 )	22,870		
(5) 差入保証金	4,788,244	4,763,472	24,771
資産計	7,984,318	7,959,643	24,675
(1) 買掛金	1,639,029	1,639,029	
(2) 短期借入金	5,266,544	5,266,544	
(3) リース債務(流動負債)	93,427	93,427	
(4) 未払法人税等	557,287	557,287	
(5) 長期借入金	4,166,557	4,176,371	9,814
(6) リース債務(固定負債)	162,173	163,138	965
(7) 長期預り保証金	979,636	980,318	681
負債計	12,864,655	12,876,116	11,461
デリバティブ取引( 2 )	330	330	

( 1 ) 長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

( 2 ) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務の純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については を付しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

(4) 長期貸付金、(5) 差入保証金

長期貸付金及び差入保証金の時価の算定は、その将来キャッシュ・フローを信用リスクに応じた適切な利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、貸倒懸念債権については、同様の割引率による見積キャッシュ・フローの割引現在価値、又は、担保及び保証による回収見込額等により、時価を算定しております。

負 債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) リース債務(流動負債)、(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期借入金、(6) リース債務(固定負債)、(7) 長期預り保証金

長期借入金及びリース債務(固定負債)の時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

長期預り保証金の時価は、主に将来キャッシュ・フローに信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表価額(千円)
非上場株式(1)	1,250
長期預り保証金(2)	115,945

(1) これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(3)投資有価証券」には含めておりません。

(2) 賃貸物件における賃借人から預託されている預り保証金は、市場価格がなく、かつ、賃借人の入居から退去までの実質的な預託期間を算定することは困難であることから、合理的なキャッシュ・フローを見積もることが極めて困難と認められるため、「負債(7)長期預り保証金」に含めておりません。

(注) 3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,674,806			
売掛金	1,382,322			
投資有価証券				
満期保有目的の債券				
国債	9,947			
差入保証金	572,691	1,702,374	567,348	1,945,830
合計	3,639,767	1,702,374	567,348	1,945,830

(注) 4 短期借入金、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	3,080,000	-	-	-	-	-
長期借入金	2,186,544	1,971,196	549,579	691,336	688,256	266,190
リース債務	93,427	66,915	44,538	26,234	15,310	9,175
合計	5,359,971	2,038,111	594,117	717,570	703,566	275,365

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	9,923	10,025	101
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	9,923	10,025	101
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		9,923	10,025	101

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	9,947	10,044	96
	(2) 社債			
	(3) その他			
	小計	9,947	10,044	96
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等			
	(2) 社債			
	(3) その他			
	小計			
合計		9,947	10,044	96

2. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	106,746	65,727	41,018
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	106,746	65,727	41,018
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		106,746	65,727	41,018

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	128,997	65,883	63,114
	(2) 債券			
	国債・地方債等			
	社債			
	その他			
	(3) その他			
	小計	129,022	65,883	63,138
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式			
	(2) 債券			
	国債・地方債等			
	社債			
	その他			
	(3) その他			
	小計			
合計		129,022	65,883	63,138

3. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額 （千円）	売却損の合計額 （千円）
(1) 株式	42,160	16,911	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	42,160	16,911	-

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額 （千円）	売却損の合計額 （千円）
(1) 株式	438,750	415,750	
(2) 債券			
国債・地方債等			
社債			
その他			
(3) その他			
合計	438,750	415,750	



(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(平成29年3月31日)

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引  
 金利関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度(平成29年3月31日)		
			契約額等 (千円)	契約額等のうち1年 超 (千円)	時価 (千円)
原則的処理方法	金利オプション取引 金利スワップ取引	長期借入金	500,000	150,000	1,415

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引  
 金利関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度(平成30年3月31日)		
			契約額等 (千円)	契約額等のうち1年 超 (千円)	時価 (千円)
原則的処理方法	金利オプション取引 金利スワップ取引	長期借入金	500,000	50,000	330

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社の一部については、退職金規程に基づく退職一時金制度を採用しております。

なお、連結子会社の一部については、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しておりますが、連結財務諸表における重要性が乏しいため、原則法による注記に含めて開示しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	387,549千円	398,697千円
勤務費用	32,036	34,840
利息費用	363	404
数理計算上の差異の発生額	213	25,659
退職給付の支払額	21,039	21,836
退職給付債務の期末残高	398,697	437,764

(2) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
勤務費用	32,036千円	34,840千円
利息費用	363	404
数理計算上の差異の費用処理額	213	25,659
確定給付制度に係る退職給付費用	32,186	60,903

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は勤務費用に計上しております。

(3) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成29年3月31日)	(平成30年3月31日)
割引率	0.1%	0.1%
予想昇給率	3.2	3.0

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

( 税効果会計関係 )

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
減価償却費	589,505千円	712,585千円
資産除去債務	351,081	428,454
減損損失		401,204
たな卸資産評価損	80,028	84,366
退職給付に係る負債	121,063	133,028
賞与引当金	116,725	112,519
ポイント引当金	54,683	46,109
未払報奨金	18,559	34,652
未払事業税	22,667	40,221
繰越欠損金	48,549	61,099
その他	197,568	218,337
繰延税金資産小計	1,600,434	2,272,578
評価性引当額	286,392	662,971
繰延税金資産合計	1,314,042	1,609,607
繰延税金負債		
資産除去債務に係る除去費用	163,101	187,799
負債調整勘定		124,025
連結子会社評価差額金	89,011	89,108
その他	35,052	35,183
繰延税金負債計	287,166	436,117
繰延税金資産の純額	1,026,875	1,173,489

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.8%	30.8%
(調整)		
永久に損金算入されない項目	1.2	10.5
住民税均等割	3.0	15.9
子会社との税率差異	1.1	30.3
のれん償却額	3.0	16.2
評価性引当額の増減額	23.2	192.2
その他	0.1	0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	62.1	234.6

(表示方法の変更)

前連結会計年度において「その他」に含めておりました「子会社との税率差異」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の注記の組替を行っております。この結果、前連結会計年度において「その他」に表示していた0.9%は、「子会社との税率差異」1.1%、「その他」0.1%として組み替えております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 事業譲受の概要

(1) 譲受先企業の名称及びその事業の内容

譲受先企業の名称	(a)株式会社みちのくオートボックス
	(b)株式会社オートボックス秋田
事業の内容	カー用品の小売等

(2) 企業結合を行った主な理由

カー用品事業の更なる拡充を図ることを目的といたします。

(3) 企業結合日

平成30年3月1日

- (4) 企業結合の法的形式  
 現金を対価とする事業譲受
- (5) 事業譲受後企業の名称  
 株式会社アイエーオートボックス
- (6) 取得企業を決定するに至った主な根拠  
 株式会社アイエーオートボックスが現金を対価としてオートボックス13店舗、スーパーオートボックス2店舗を譲り受けたためであります。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得事業の業績の期間  
 平成30年3月1日～平成30年3月31日まで

3. 事業譲受企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	124,180千円
取得原価		124,180千円

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

- (1) 発生したのれん  
 13,092千円
- (2) 発生原因  
 期待される将来の収益力に関連して発生したものです。
- (3) 償却方法及び償却期間  
 金額的重要性が乏しいため、当連結会計年度において一括償却しております。

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額

流動資産	487,534千円
固定資産	55,751
資産合計	543,285
流動負債	105,347
固定負債	326,849
負債合計	432,196

6. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法  
 当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

当社グループの店舗用施設他の定期借地権契約及び不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

各々使用見込期間を取得から8年から38年と見積り、割引率は0.1%から2.3%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
期首残高	1,087,624千円	1,057,242千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	-	137,117
企業結合による増加額	-	79,682
時の経過による調整額	15,618	15,720
資産除去債務の履行による減少額	46,000	
その他増減額(は減少)		
期末残高	1,057,242	1,289,762

(賃貸等不動産関係)

一部の連結子会社では、神奈川県において、賃貸用のオフィスビル(土地を含む)及び賃貸用の居住用マンションを有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する損益は、42,791千円(賃貸収入は売上高に、賃貸費用は売上原価に計上)であります。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する損益は、37,785千円(賃貸収入は売上高に、賃貸費用は売上原価に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	1,449,240	1,427,136
期中増減額	22,104	298,521
期末残高	1,427,136	1,128,614
期末時価	1,624,037	1,309,483

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当期の期中増減額のうち、主な減少額は、保有目的の変更によるたな卸資産への振替(288,302千円)であります。

3. 当連結会計年度末の時価は、不動産鑑定士による鑑定書等の金額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分に関する意思決定を行い、かつ、業績評価をするために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社の事業区分は、当社の内部管理上採用している区分をベースに、オートボックス商品の販売を行う「カー用品事業」、結婚式の請負を行う「ブライダル事業」、建設工事・戸建住宅建設販売を行う「建設不動産事業」を報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務諸表 計上額
	カー用品事業	ブライダル事業	建設不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	20,982,549	9,877,552	2,712,113	33,572,215	396,734	33,968,950	-	33,968,950
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,567	50	231,135	235,753	1,332,209	1,567,962	1,567,962	-
計	20,987,116	9,877,602	2,943,249	33,807,969	1,728,943	35,536,912	1,567,962	33,968,950
セグメント利益又は損失 ( )	496,529	204,481	347,717	639,765	67,307	707,072	7,784	714,857
セグメント資産	8,152,947	9,121,089	7,085,619	24,359,656	14,160,626	38,520,282	8,144,373	30,375,909
その他の項目								
減価償却費	171,970	871,956	22,919	1,066,846	163,825	1,230,671	2,924	1,227,747
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	51,702	131,041	5,412	188,155	55,479	243,635	451	243,183

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食事業及び経理・総務代行業務等を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失調整額は、セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント資産の調整額は、債権の相殺消去 4,432,310千円、投資の消去 3,692,124千円が含まれております。

(3) セグメント利益又は損失は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸表 計上額
	カー用品事業	プライダル事業	建設不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	21,286,199	8,293,776	2,911,979	32,491,955	331,016	32,822,971	-	32,822,971
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,534	100	236,152	239,787	1,217,120	1,456,907	1,456,907	-
計	21,289,734	8,293,876	3,148,132	32,731,742	1,548,136	34,279,878	1,456,907	32,822,971
セグメント利益又は損失 ( )	901,625	433,798	408,118	875,946	2,927	878,873	12,848	891,722
セグメント資産	9,871,943	7,345,510	8,832,664	26,050,118	14,939,307	40,989,425	9,032,263	31,957,161
その他の項目								
減価償却費	144,368	803,516	50,735	998,620	173,985	1,172,605	2,626	1,169,979
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	170,287	1,054,464	1,043	1,225,796	47,137	1,272,933	2,248	1,270,684

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食事業及び経理・総務代行業務等を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失調整額は、セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント資産の調整額は、債権の相殺消去 5,320,379千円、投資の消去 3,692,124千円が含まれております。

(3) セグメント利益又は損失は、連結財務諸表の営業利益と調整を行なっております。

#### 4. 報告セグメントの変更等に関する事項

(表示方法の変更)

プライダル事業における契約解除に伴う違約金については、従来営業外収益の違約金収入に含めて表示していましたが、消費者団体からの要請を受け、違約金対象となるサービス範囲を見直したことを契機に、契約解除に至るまでの発生原価（売上原価）に対応させるため当連結会計年度から売上高に含めて表示することにしました。この変更に伴い、前連結会計年度の連結財務諸表について表示の組替えを行っております。この結果、違約金収入38,047千円を売上高に組み替えております。

#### 【関連情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

##### 1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	カー用品事業	プライダル事業	建設不動産事業	その他	合計
外部顧客への売上高	20,982,549	9,877,552	2,712,113	396,734	33,968,950

##### 2. 地域ごとの情報

###### (1) 売上高

当社は本邦以外の国又は地域に所在する支店ならびに連結子会社がないため、当該事項はありません。

###### (2) 有形固定資産

当社は本邦以外の国又は地域に所在する支店ならびに連結子会社がないため、当該事項はありません。

##### 3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める外部顧客はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	カー用品事業	ブライダル事業	建設不動産事業	その他	合計
外部顧客への売上高	21,286,199	8,293,776	2,911,979	331,016	32,822,971

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

当社は本邦以外の国又は地域に所在する支店ならびに連結子会社がないため、当該事項はありません。

(2) 有形固定資産

当社は本邦以外の国又は地域に所在する支店ならびに連結子会社がないため、当該事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める外部顧客はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	カー用品事業	ブライダル事業	建設不動産事業	その他	合計
減損損失	-	1,220,458	-	34,329	1,254,787



【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：千円）

	カー用品事業	ブライダル事業	建設不動産事業	その他	合計
当期償却額	85,542	-	-	-	85,542
当期末残高	178,179	-	-	-	178,179

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	カー用品事業	ブライダル事業	建設不動産事業	その他	合計
当期償却額	98,634	-	-	-	98,634
当期末残高	92,637	-	-	-	92,637

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の役員及び個人主要株主（個人の場合に限る）等

(株)アイエー

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
役員	古川教行			当社代表取締役社長	直接 3.0	被債務保証	被債務保証	665,418		
役員 の近親者 の所有 の会社	川井商事(株)	岐阜市 八坂町 6-1	10,000	不動産業			不動産の 賃借	12,000	差入 保証金	122,401

被債務保証の取引金額には、消費税等を含めて表示しており、不動産の賃借の取引金額には、消費税を含めておりません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) 役員との被債務保証取引は、オートバックスチェーン契約に係る連帯保証であり、同契約の締結に際してフランチャイジーに共通して求められるものであります。記載金額は、株式会社オートバックスセブンの営業取引に係る債務の合計額であります。当該債務保証に関して、保証料の支払及び担保の提供は行っておりません。
- (2) 賃借料は、近隣の賃料を参考にして、同等の価格としております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の役員及び個人主要株主（個人の場合に限る）等

(株)アイエー

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
役員	古川教行			当社代表取締役社長	直接 3.2	被債務保証	被債務保証	866,457		
役員 の近親者 の所有 の会社	川井商事(株)	岐阜市 八坂町 6-1	10,000	不動産業			不動産の 賃借	12,000	差入 保証金	116,961

被債務保証の取引金額には、消費税等を含めて表示しており、不動産の賃借の取引金額には、消費税を含めておりません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) 役員との被債務保証取引は、オートバックスチェーン契約に係る連帯保証であり、同契約の締結に際してフランチャイジーに共通して求められるものであります。記載金額は、株式会社オートバックスセブンの営業取引に係る債務の合計額であります。当該債務保証に関して、保証料の支払及び担保の提供は行っておりません。
- (2) 賃借料は、近隣の賃料を参考にして、同等の価格としております。

( 1株当たり情報 )

項目	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
1株当たり純資産額	9,009円94銭	8,843円11銭
1株当たり当期純利益又は1株当たり 純損失( )	210円61銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額については、潜在株式が 存在しないため記載していません。	141円01銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額については、潜在株式が 存在しないため記載していません。

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益または1株当たり当期純損失を算定しております。

1 1株当たり純資産額

項目	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月31日)
連結貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	13,913,458	13,478,648
普通株式に係る純資産額(千円)	13,913,458	13,448,676
差額の主な内訳(千円)	-	29,972
普通株式の発行済株式数(株)	1,645,360	1,645,360
普通株式の自己株式数(株)	101,125	124,551
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	1,544,235	1,520,809

2 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失

項目	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する 当期純損失( )(千円)	332,716	215,407
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社 株主に帰属する当期純損失( )(千円)	332,716	215,407
普通株式の期中平均株式数(株)	1,579,766	1,527,606

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,240,000	3,080,000	0.46	-
1年以内に返済予定の長期借入金	1,541,145	2,186,544	0.43	-
1年以内に返済予定のリース債務	59,766	93,427	1.09	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	5,513,101	4,166,557	0.39	平成31年4月～ 平成36年6月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	113,973	162,173	1.03	平成31年4月～ 平成35年1月
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	9,467,986	9,688,702	-	-

(注) 1 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,971,196	549,579	691,336	688,256
リース債務	66,915	44,538	26,234	15,310

2 「平均利率」については、借入金等の期中平均残高に対する加重平均利率を記載しております。

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	7,438,260	14,939,929	24,257,383	32,822,971
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額又は損失( ) (千円)	173,854	577,513	1,434,833	162,472
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益金額又は損失 ( )(千円)	60,532	261,232	933,991	215,407
1株当たり四半期(当期)純 利益金額又は損失( ) (円)	39.35	170.55	610.67	141.01

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 又は損失( )(円)	39.35	131.70	441.43	755.15

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。第34期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額又は損失を算定しております。

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	136,826	331,604
売掛金	3,994	4,509
原材料及び貯蔵品	2,455	2,320
前払費用	43,862	45,498
繰延税金資産	24,682	18,977
関係会社短期貸付金	2,007,590	2,877,390
未収入金	55,719	25,551
立替金	2,726	1,971
その他	24	13
流動資産合計	2,277,882	3,307,837
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	1,419,049,988	1,417,825,567
構築物	53,327	44,373
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	17,341	13,878
土地	14,190,296	14,190,296
リース資産	36,044	20,407
建設仮勘定	-	8,071
有形固定資産合計	6,201,999	6,059,596
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	3,260	83,150
ソフトウェア仮勘定	95,040	-
無形固定資産合計	98,300	83,150

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1 129,846	1 129,097
関係会社株式	3,692,124	3,692,124
出資金	14,490	14,490
関係会社長期貸付金	826,350	734,310
長期前払費用	21,166	13,381
生命保険積立金	120,257	125,027
差入保証金	553,523	548,673
繰延税金資産	182,697	189,521
投資その他の資産合計	5,540,455	5,446,626
<b>固定資産合計</b>	<b>11,840,754</b>	<b>11,589,373</b>
<b>資産合計</b>	<b>14,118,637</b>	<b>14,897,210</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	10,078	9,408
短期借入金	1, 2 3,710,000	1, 2 4,650,000
1年内返済予定の長期借入金	1 857,795	1 1,468,332
リース債務	8,143	28,500
未払金	4,906	16,930
未払費用	31,843	40,288
未払法人税等	8,788	122,903
未払消費税等	15,696	-
前受金	3,507	3,507
預り金	5,526	8,671
賞与引当金	19,375	19,275
流動負債合計	4,675,661	6,367,817
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1 2,471,839	1 1,396,507
リース債務	28,349	20,132
退職給付引当金	29,111	32,565
役員退職慰労引当金	300,000	350,000
長期預り保証金	45,707	45,707
資産除去債務	186,947	189,272
その他	1,415	330
固定負債合計	3,063,369	2,034,514
<b>負債合計</b>	<b>7,739,030</b>	<b>8,402,332</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,314,100	1,314,100
資本剰余金		
資本準備金	1,824,791	1,824,791
資本剰余金合計	1,824,791	1,824,791
利益剰余金		
利益準備金	72,459	72,459
その他利益剰余金		
別途積立金	2,692,000	2,692,000
繰越利益剰余金	786,268	966,815
利益剰余金合計	3,550,727	3,731,274
自己株式	337,274	418,884
株主資本合計	6,352,343	6,451,281
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	28,237	43,826
繰延ヘッジ損益	974	229
評価・換算差額等合計	27,262	43,597
純資産合計	6,379,606	6,494,878
負債純資産合計	14,118,637	14,897,210

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
<b>営業収益</b>		
不動産賃貸収入	1 929,989	1 767,300
関係会社受入手数料	1 469,200	1 460,800
飲食売上高	329,754	319,934
<b>営業収益合計</b>	<b>1,728,943</b>	<b>1,548,034</b>
<b>営業原価</b>		
不動産賃貸原価	628,198	472,111
飲食売上原価	108,147	106,181
<b>営業原価合計</b>	<b>736,346</b>	<b>578,293</b>
<b>営業総利益</b>	<b>992,597</b>	<b>969,740</b>
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>3 925,602</b>	<b>3 967,080</b>
<b>営業利益</b>	<b>66,994</b>	<b>2,660</b>
<b>営業外収益</b>		
受取利息	1 22,481	1 24,734
受取配当金	1 204,124	1 124,096
受取手数料	1,477	1,395
その他	16,795	16,311
<b>営業外収益合計</b>	<b>244,879</b>	<b>166,538</b>
<b>営業外費用</b>		
支払利息	1 41,923	1 42,417
その他	1,422	1,156
<b>営業外費用合計</b>	<b>43,346</b>	<b>43,574</b>
<b>経常利益</b>	<b>268,528</b>	<b>125,623</b>



(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
<b>特別利益</b>		
投資有価証券売却益	16,911	415,750
特別利益合計	16,911	415,750
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	2,853	2,319
店舗閉鎖損失	6,158	-
減損損失	-	34,329
特別損失合計	14,690	36,648
税引前当期純利益	270,749	504,725
法人税、住民税及び事業税	4,198	148,045
法人税等調整額	39,663	7,965
法人税等合計	43,861	140,080
当期純利益	226,887	364,645

【売上原価明細表】

前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
飲食売上原価明細表		飲食売上原価明細表	
(千円)		(千円)	
期首飲食材料棚卸高	1,426	期首飲食材料棚卸高	1,377
期中飲食材料仕入高	108,098	期中飲食材料仕入高	106,146
期末飲食材料棚卸高	1,377	期末飲食材料棚卸高	1,342
飲食売上原価	108,147	飲食売上原価	106,181

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,314,100	1,824,791	1,824,791	72,459	3,850,000	751,874	4,674,334
当期変動額							
剰余金の配当						192,798	192,798
当期純利益						226,887	226,887
別途積立金の取崩					1,158,000	1,158,000	-
自己株式の取得							
自己株式の消却						1,157,695	1,157,695
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							-
当期変動額合計	-	-	-	-	1,158,000	34,393	1,123,606
当期末残高	1,314,100	1,824,791	1,824,791	72,459	2,692,000	786,268	3,550,727

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差 額等合計	
当期首残高	1,177,716	6,635,508	46,600	2,395	44,205	6,679,713
当期変動額						
剰余金の配当		192,798				192,798
当期純利益		226,887				226,887
別途積立金の取崩		-				-
自己株式の取得	317,253	317,253				317,253
自己株式の消却	1,157,695	-				-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）		-	18,363	1,421	16,942	16,942
当期変動額合計	840,441	283,164	18,363	1,421	16,942	300,107
当期末残高	337,274	6,352,343	28,237	974	27,262	6,379,606

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,314,100	1,824,791	1,824,791	72,459	2,692,000	786,268	3,550,727
当期変動額							
剰余金の配当						184,098	184,098
当期純利益						364,645	364,645
別途積立金の取崩							
自己株式の取得							
自己株式の消却							
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	180,547	180,547
当期末残高	1,314,100	1,824,791	1,824,791	72,459	2,692,000	966,815	3,731,274

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差 額等合計	
当期首残高	337,274	6,352,343	28,237	974	27,262	6,379,606
当期変動額						
剰余金の配当		184,098				184,098
当期純利益		364,645				364,645
別途積立金の取崩						
自己株式の取得	81,609	81,609				81,609
自己株式の消却						
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			15,589	745	16,334	16,334
当期変動額合計	81,609	98,937	15,589	745	16,334	115,271
当期末残高	418,884	6,451,281	43,826	229	43,597	6,494,878

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1)有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式.....移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のあるもの.....期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のないもの.....移動平均法による原価法

(2)デリバティブの評価基準及び評価方法

デリバティブ.....時価法

(3)たな卸資産の評価基準及び評価方法

原材料および貯蔵品.....最終仕入原価法による原価法

2 固定資産の減価償却の方法

(1)有形固定資産（リース資産を除く）

建物（建物附属設備を除く）

定額法

建物以外の有形固定資産

定率法

平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、事業用定期借地契約による借地上の建物及び構築物につきましては、主に耐用年数を定期借地権の残存年数とした定額法によっております。

なお、耐用年数は、次の通りであります。

建物 3年～37年

構築物 8年～40年

機械及び装置 10年

車両運搬具 6年

工具、器具及び備品 5年～20年

(2)無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、耐用年数は、次の通りであります。

ソフトウェア 5年

(3)リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4)長期前払費用

定額法

3 引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収の可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2)賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

(3)役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に負担すべき額を計上しております。

(4)退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき当事業年度において発生している額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

発生時に全額費用処理しております。

(5)役員退職慰労引当金

役員の特別功労金支給に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

#### 4 ヘッジ会計の方法

##### (1)ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

##### (2)ヘッジ手段とヘッジ対象

当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。

ヘッジ対象・・・借入金

ヘッジ手段・・・金利スワップ、金利オプション

##### (3)ヘッジ方針

主に当社の「デリバティブ取引に関する内規」に基づき、金利変動リスクをヘッジしております。

##### (4)ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。

ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

#### 5 その他財務諸表作成のための重要な事項

##### 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産及び担保に係る債務

担保に供している資産

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
建物	479,888千円	472,921千円
土地	2,313,870	2,313,870
投資有価証券	24,780	29,910
計	2,818,539	2,816,701

担保に係る債務

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	1,790,000千円	2,180,000千円
1年内返済予定の長期借入金	661,061	1,239,928
長期借入金	2,148,449	1,301,521
計	4,599,510	4,721,449

2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債務	1,520,000	1,620,000

3 保証債務

次のとおり債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)		当事業年度 (平成30年3月31日)
(株)アイエー(仕入債務)	665,418千円	(株)アイエー(仕入債務)	866,457千円
(株)IAGアセット(借入債務)	1,165,000	(株)IAGアセット(借入債務)	1,110,000
(株)アイディーエム(借入債務)	363,000	(株)アイディーエム(借入債務)	774,000
計	2,193,418	計	2,750,457

4 過年度に取得した資産のうち、国庫補助金等による圧縮記帳額は18,055千円であり、貸借対照表計上額はこの圧縮記帳額を控除しております。

なお、内訳は建物18,055千円であります。

( 損益計算書関係 )

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
営業取引による取引高	1,332,209千円	1,217,120千円
営業取引以外の取引による取引高	284,743	200,763

2 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
建物	3,974千円	2,319千円
構築物	1,114	
機械及び装置	154	0
工具、器具及び備品	62	
ソフトウェア	3,225	
計	8,531	2,319

3 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度 1 %、当事業年度 1 %、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度99%、当事業年度99%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

( 単位：千円 )

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
役員報酬	109,900	107,550
従業員給料	227,494	219,974
賞与引当金繰入額	19,375	19,275
退職給付費用	4,907	3,850
役員退職慰労引当金繰入額	50,000	50,000
賃借料	119,726	119,376
減価償却費	31,256	51,663

(有価証券関係)

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は3,692,124千円、前事業年度の貸借対照表計上額は、3,692,124千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
会社分割による子会社株式調整額	128,231千円	128,247千円
役員退職慰労引当金	91,740	107,030
減価償却費	18,496	21,842
減損損失		9,722
資産除去債務	57,161	57,879
退職給付引当金	8,901	9,958
賞与引当金	5,969	5,894
その他	25,550	13,369
繰延税金資産小計	336,050	353,944
評価性引当額	91,740	107,030
繰延税金資産合計	244,310	246,914
<b>繰延税金負債</b>		
資産除去債務に係る除去費用	24,590	19,126
その他有価証券評価差額金	12,340	19,287
繰延税金負債合計	36,930	38,414
繰延税金資産の純額	207,380	208,499

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.8%	30.8%
(調整)		
永久に損金算入されない項目	0.9	0.4
永久に益金算入されない項目	22.8	7.4
評価性引当額	5.7	3.1
住民税均等割	1.6	0.9
その他	0.0	0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	16.2	27.8

(重要な後発事象)

該当事項はありません。



【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額	当期償却額	差引当期末 残高
有形固定資産							
建物	3,593,312	36,145	35,124	3,594,333	1,811,766	156,247 (23,553)	1,782,567
構築物	342,464			342,464	298,090	8,953	44,373
車両運搬具	13,323			13,323	13,323		0
工具、器具及び備品	45,139	2,919	1,307	46,751	32,873	6,383 (1,672)	13,878
土地	4,190,296			4,190,296			4,190,296
建設仮勘定		8,071		8,071			8,071
リース資産	66,475			66,475	46,068	15,637 (7,436)	20,407
有形固定資産計	8,251,011	47,137	36,432	8,261,716	2,202,120	187,221 (32,662)	6,059,596
無形固定資産							
ソフトウェア	16,508	99,487		115,995	32,845	19,596	83,150
リース資産	41,023			41,023	41,023		
ソフトウェア仮勘定	95,040		95,040				
無形固定資産計	152,572	99,487	95,040	157,019	73,868	19,596	83,150

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次の通りであります。

ソフトウェア 会計システム導入費用 88,000千円

2. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

ソフトウェア仮勘定 会計システム導入費用 95,040千円

3. 当期償却額の(内書)は、減損損失の計上額です。

【引当金明細表】

(単位：千円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
賞与引当金	19,375	19,275	19,375	19,275
役員退職慰労引当金	300,000	50,000		350,000

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 当社の公告掲載URLは次のとおり。http://www.ia_group.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。  
 会社法第189条第2項各号に掲げる権利  
 取得請求権付株式の取得を請求する権利  
 募集株式または募集新株予約権を割当てを受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社には金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第34期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）平成29年6月23日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月23日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第35期第1四半期）（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）平成29年8月10日関東財務局長に提出

（第35期第2四半期）（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）平成29年11月13日関東財務局長に提出

（第35期第3四半期）（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）平成30年2月9日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成29年6月28日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

平成30年6月14日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第19号（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象）に基づく臨時報告書であります。

(5) 自己株券買付状況報告書

平成29年7月4日、平成29年12月4日、平成30年1月5日、平成30年2月6日、平成30年3月6日、平成30年4月5日、平成30年6月6日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年 6 月26日

アイエーグループ株式会社  
取締役会 御中

### 監査法人 A & A パートナーズ

指定社員 公認会計士 坂本裕子 印  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 寺田聡司 印  
業務執行社員

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているアイエーグループ株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

#### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アイエーグループ株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、アイエーグループ株式会社の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、アイエーグループ株式会社が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
  - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成30年6月26日

アイエーグループ株式会社  
取締役会 御中

## 監査法人 A & A パートナーズ

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 坂本 裕子 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 寺田 聡司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「經理の状況」に掲げられているアイエーグループ株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第35期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アイエーグループ株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。